

【訂正後】



2015年3月期 第3四半期決算 決算短信補足資料

2015年2月5日
日本水産株式会社

◆前年同期比で増収・増益。

海外が順調に推移する中、円安の影響もあり国内の事業環境は引き続き厳しい状況。

【水産事業】 増収・増益

国内：販売価格は総じて堅調さを維持したものの円安の影響もあり、粗利が取りにくい環境。在庫の回転を上げることで売り上げを伸ばし、利益を確保。

海外：北米の助子増産に加え、南米の鮭鱒養殖事業での販売価格上昇や在池魚の評価益もあり収支大幅改善。東南アジア販社で回収懸念債権への引当て。

【食品事業】 増収・増益

国内：原料すりみ価格の上昇や、円安進行によるコストアップ、販促費の負担が依然重いも、ねり製品・魚肉ソーセージなどが好調。チルド事業も堅調に推移。

海外：不採算事業縮小による増益に加え、北米の収支大幅改善。欧州も好調さ維持。

【ファイン事業】 減収・減益

個別、グループとも苦戦。ニッスイ個別は、薬価改定および政府主導による後発品使用促進策の影響により、粗利／売上数量の減少。成長を狙う機能性食品分野は販売数量が期待に反し伸び悩む。グループは、医薬事業・化粧品事業における消費税率引き上げ前の、駆け込み需要の反動からの回復遅れ。

◆水産・食品事業は増収・増益、ファイン事業は減収・減益。

(単位:億円)

	2015年3月期 第3四半期	2014年3月期 第3四半期	対前年同期比 増減額/率(%)	
売上高	4,721	4,486	234	105.2
水産事業	2,106	1,860	245	113.2
食品事業	2,207	2,124	82	103.9
ファイン事業	187	215	▲ 28	87.0
物流事業	108	106	2	102.4
その他	111	179	▲ 68	62.0
営業利益	170	116	53	145.9
水産事業	74	41	33	178.9
食品事業	61	24	36	251.6
ファイン事業	36	58	▲ 22	62.4
物流事業	13	13	0	104.1
その他	5	8	▲ 3	62.5
全社経費	▲ 21	▲ 29	8	72.3
経常利益	207	112	95	184.5
四半期純利益	105	58	47	180.4

2015年3月期 見通し(年間)	年間見通しに対 する進捗率(%)
6,100	77.4
2,663	79.1
2,853	77.4
262	71.6
144	75.6
178	62.4
175	97.4
74	101.2
64	95.8
43	84.9
17	82.0
7	72.7
▲ 30	71.3
200	103.9
105	100.5

※2015年3月期見通し(年間)は、第2四半期決算発表時に公表した修正計画値(次頁以下同様)

セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結 計
水産事業	1,657 (113)	333 (58)	219 (70)	123 (20)	368 (35)	2,702 (298)	▲595 (▲53)	2,106 (245)
	1,543	274	149	102	332	2,403	▲542	1,860
食品事業	2,365 (70)	435 (42)		53 (▲15)	140 (▲24)	2,995 (72)	▲787 (9)	2,207 (82)
	2,294	393		68	165	2,922	▲797	2,124
ファイン事業	199 (▲28)			2 (0)		201 (▲28)	▲14 (0)	187 (▲28)
	228			1		229	▲14	215
物流事業	177 (5)					177 (5)	▲68 (▲3)	108 (2)
	171					171	▲65	106
その他事業	146 (▲64)			1 (0)		147 (▲64)	▲36 (▲3)	111 (▲68)
	210			1		211	▲32	179
仮計	4,545 (96)	768 (100)	219 (70)	179 (5)	509 (11)	6,223 (284)		
	4,449	667	149	174	497	5,939		
連結調整	▲1,115 (▲21)	▲144 (▲14)	▲149 (▲41)	▲86 (15)	▲5 (11)		▲1,502 (▲50)	
	▲1,094	▲130	▲107	▲102	▲16		▲1,452	
連結 計	3,429 (74)	624 (86)	70 (28)	92 (21)	503 (22)			4,721 (234)
	3,354	537	41	71	480			4,486

※上段は当四半期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

※連結除外会社及び新規連結会社の影響額 ▲64億円(Leuchtturm▲42、山東山孚▲26、弓ヶ浜水産+4 他)

※為替換算による売上高への影響額(試算) 140億円

セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結 計
水産事業	28 (1)	15 (8)	39 (35)	▲8 (▲8)	7 (1)		83 (38)	▲8 (▲5)	74 (33)
	27	6	4	0	6		45	▲3	41
食品事業	34 (8)	11 (13)		2 (1)	13 (13)		61 (36)	▲0 (0)	61 (36)
	26	▲2		0	▲0		24	▲0	24
ファイン事業	35 (▲22)			0 (0)			36 (▲22)	0 (0)	36 (▲22)
	58			0			58	0	58
物流事業	13 (0)						13 (0)	0 (▲0)	13 (0)
	12						12	0	13
その他事業	4 (▲2)			0 (▲0)			4 (▲2)	0 (▲0)	5 (▲3)
	6			0			7	1	8
全社経費						▲21 (8)	▲21 (8)	0 (▲0)	▲21 (8)
						▲30	▲30	0	▲29
仮計	117 (▲14)	26 (22)	39 (35)	▲5 (▲7)	21 (15)	▲21 (8)	177 (59)		
	132	3	4	1	5	▲30	118		
連結調整	1 (▲2)	0 (▲0)	▲2 (▲1)	▲0 (▲0)	▲5 (▲0)	▲0 (▲0)		▲7 (▲5)	
	3	0	▲1	0	▲4	▲0		▲1	
連結 計	119 (▲16)	26 (22)	37 (33)	▲6 (▲8)	16 (14)	▲22 (8)			170 (53)
	135	4	3	2	1	▲30			116

※上段は当四半期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる。

※連結除外会社及び新規連結会社による営業利益への影響額 +9億円

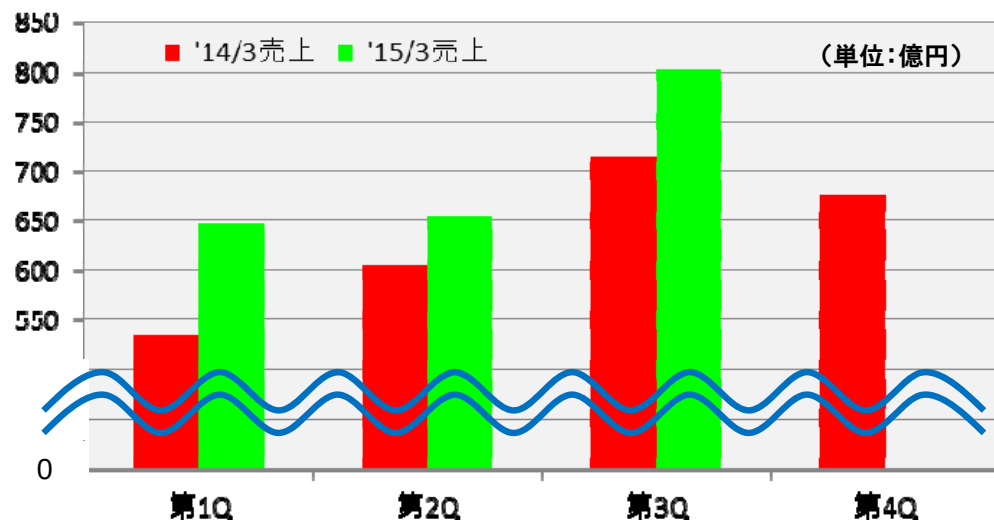
◆魚価は総じて高値を維持し、南米の鮭鱒養殖事業で販売価格上昇もあり、増収・増益

(単位:億円)	2015年3月期 第3四半期	2014年3月期 第3四半期	対前年同期比 増減額/率		2015年3月期 見通し(年間)	修正計画に対 する進捗率
売上高	2,106	1,860	245	113.2%	2,663	79.1%
営業利益	74	41	33	178.9%	74	101.2%

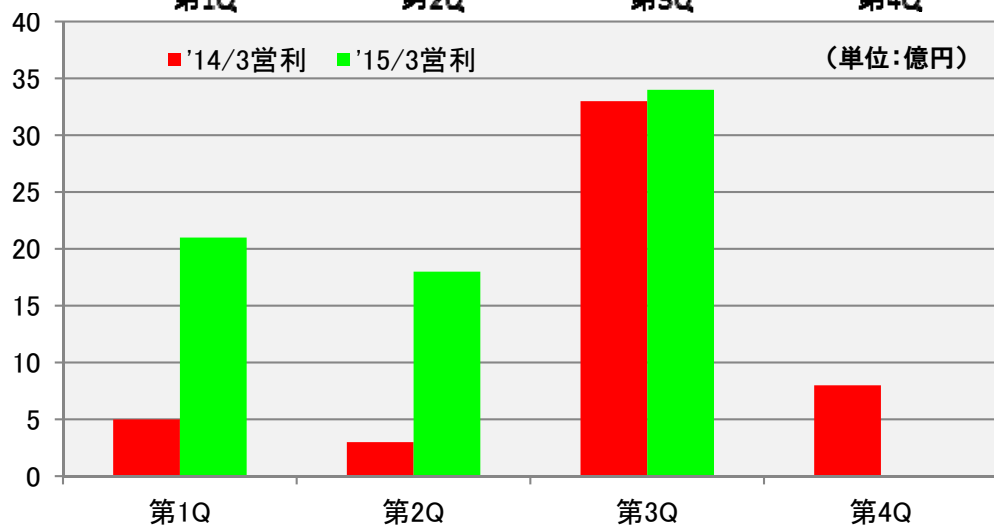
【第3四半期総括】

- ・ロシア禁輸や円安の進行などにより、水産物市況は堅調に推移
- ・日本:在庫コントロールの徹底と回転率アップによる増収により粗利確保
- ・南米:鮭鱒養殖事業が好調(在池魚の評価益含む)
- ・北米、ヨーロッパとも堅調に推移したが、東南アジア販社で回収懸念債権に引当て

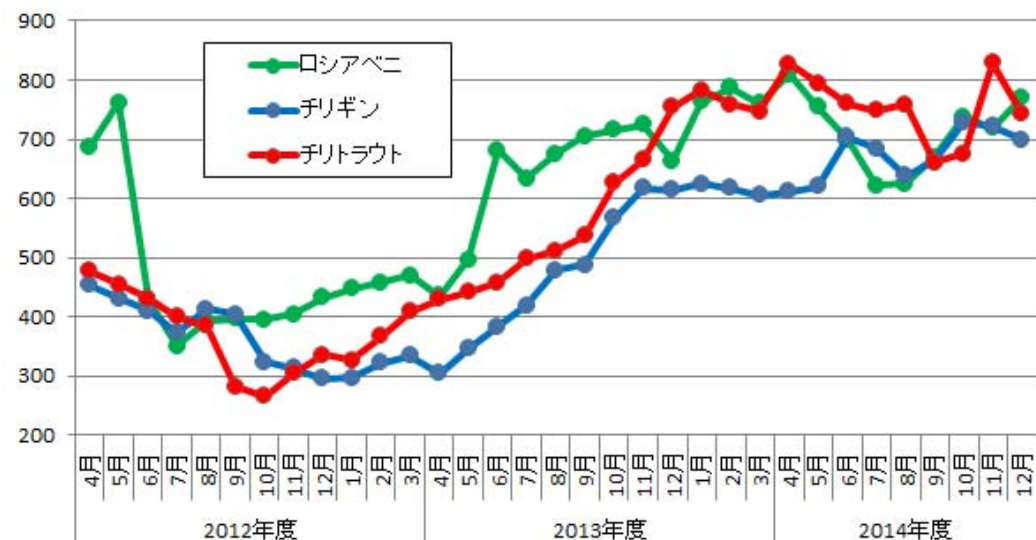
売上高



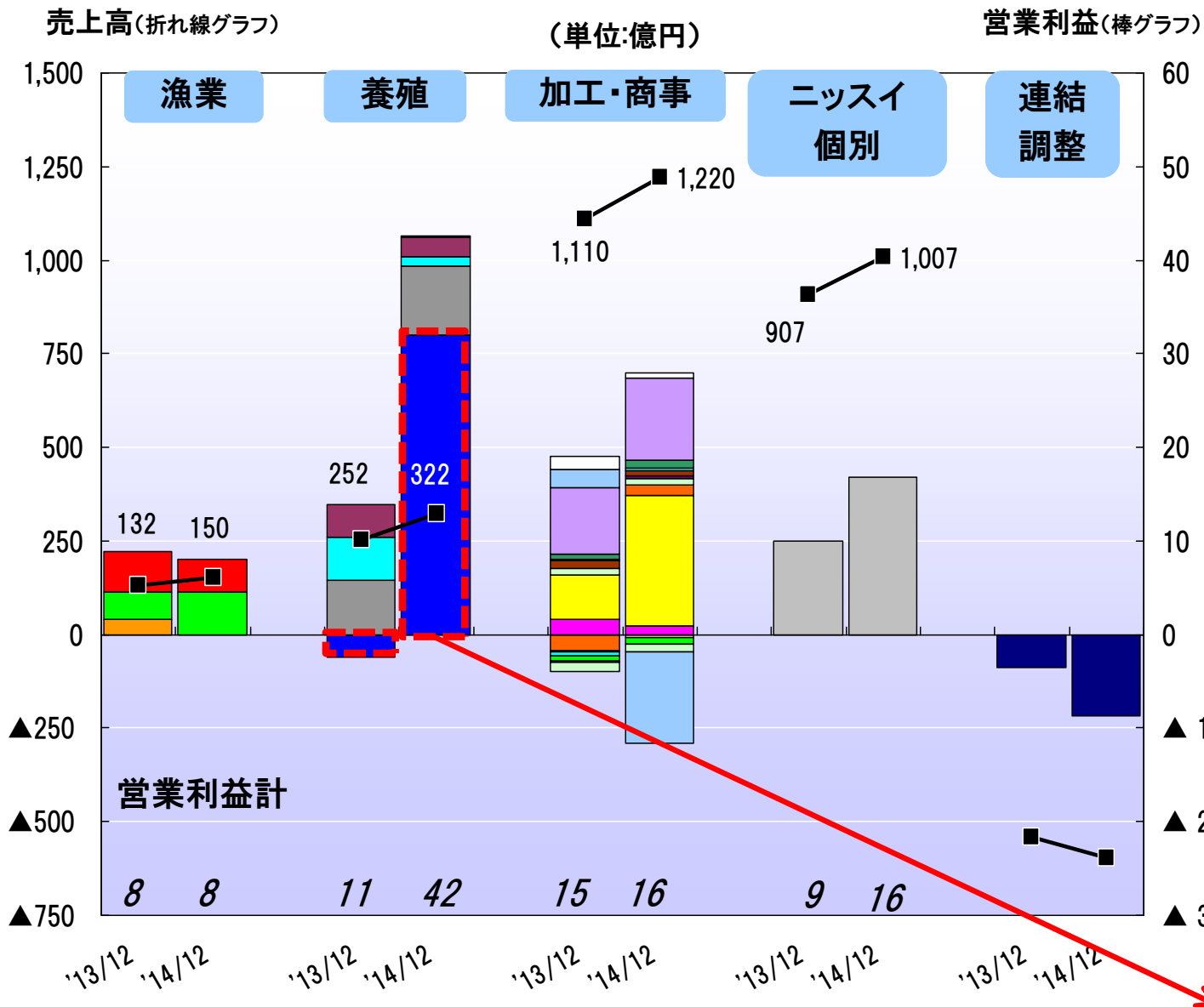
営業利益



＜水産物市況 鮭鱒 (財務省貿易統計より算出)＞



水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)



主な増減要因

【漁業】

- ・国内の漁撈事業
ぶりなどの漁獲は好調である一方、かつおの販売価格が低迷

【養殖】

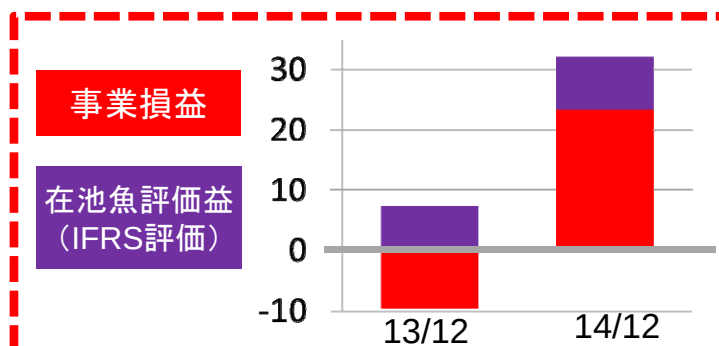
- ・国内養殖事業
ぶり:「若ぶり」好調、年末も販売価格堅調
まぐろ: 販売価格低迷・販売数量は増加
- ・チリの鮭鱒養殖事業
販売価格の上昇、在池魚評価益の増加

【加工・商事】

- ・アメリカのすけそうだら事業
すりみ: 販売価格上昇、助子: 取扱数量増加
- ・欧州: えび、白身魚など魚価が高値で推移
- ・アジア: 東南アジア販社において、回収が懸念される売掛債権への貸倒引当金計上

【ニッスイ個別】

- ・鮭鱒の販売価格など、ロシア禁輸措置や円安の進行などにより、総じて堅調に推移



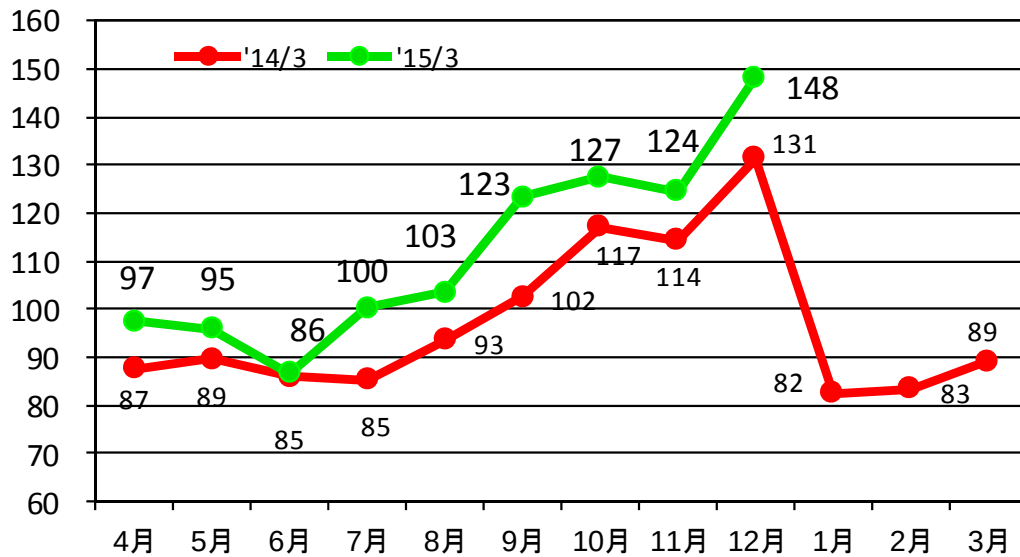
※漁業、養殖、加工・商事のグラフは連結子会社の合計を記載
 ※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値
 ※営業利益の連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる

水産事業 ニススイ個別(前年同期比)



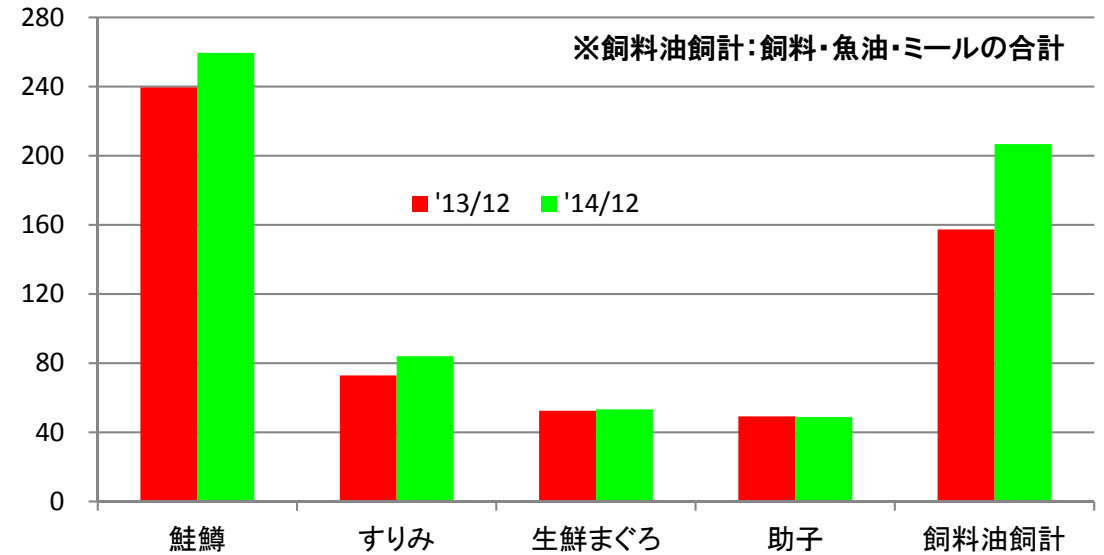
<売上高(月別)>

(単位:億円)



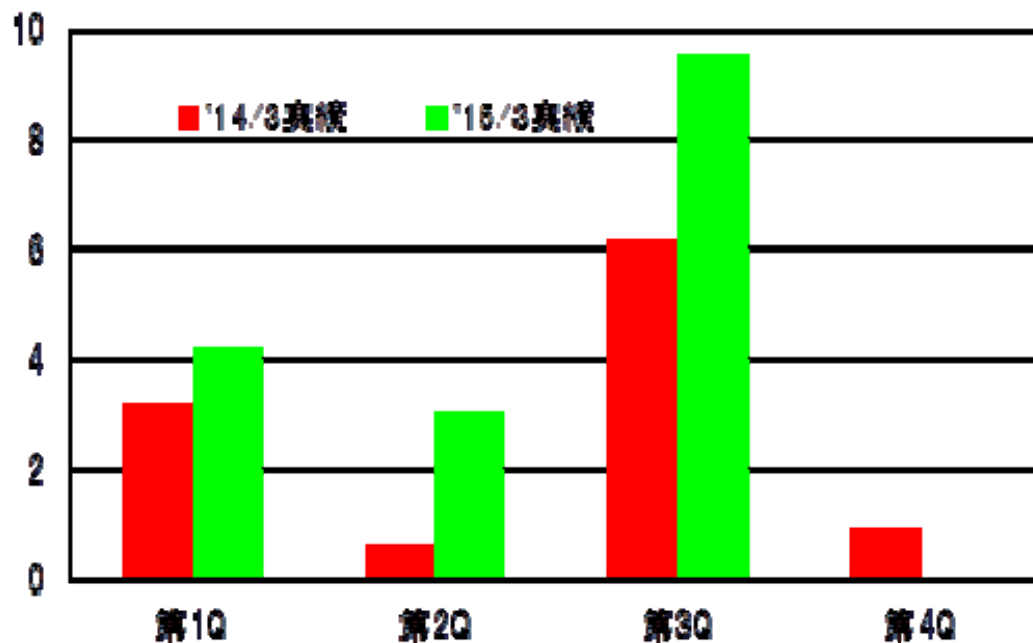
<主要魚種別 売上高(前年同期比)>

(単位:億円)

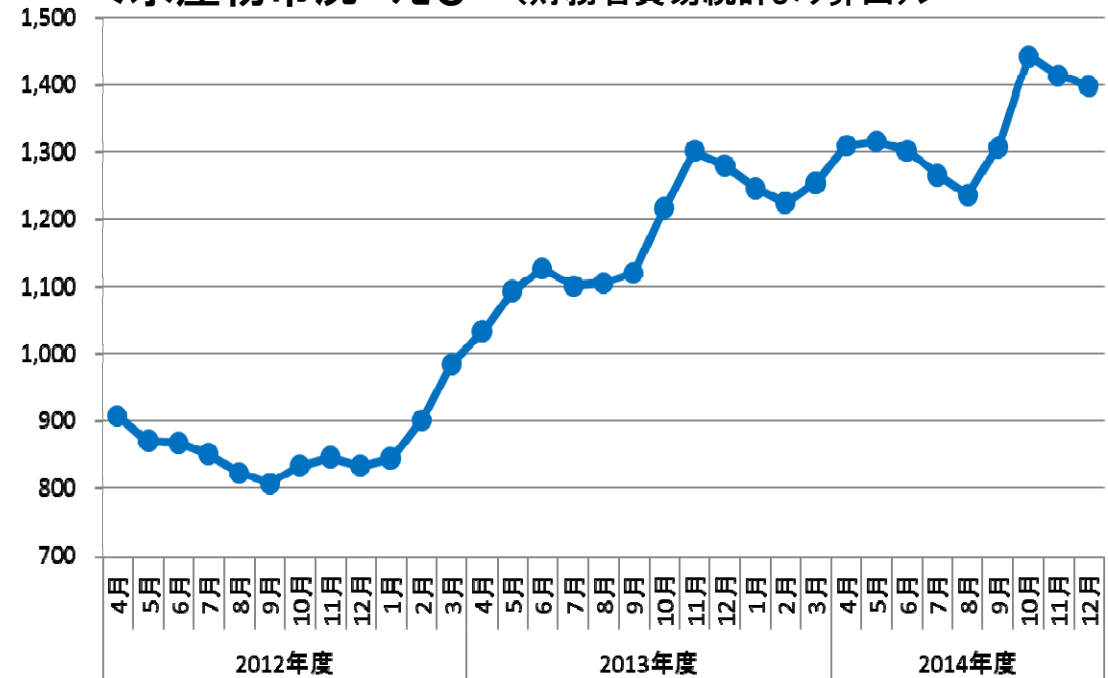


<営業利益(四半期別)>

(単位:億円)

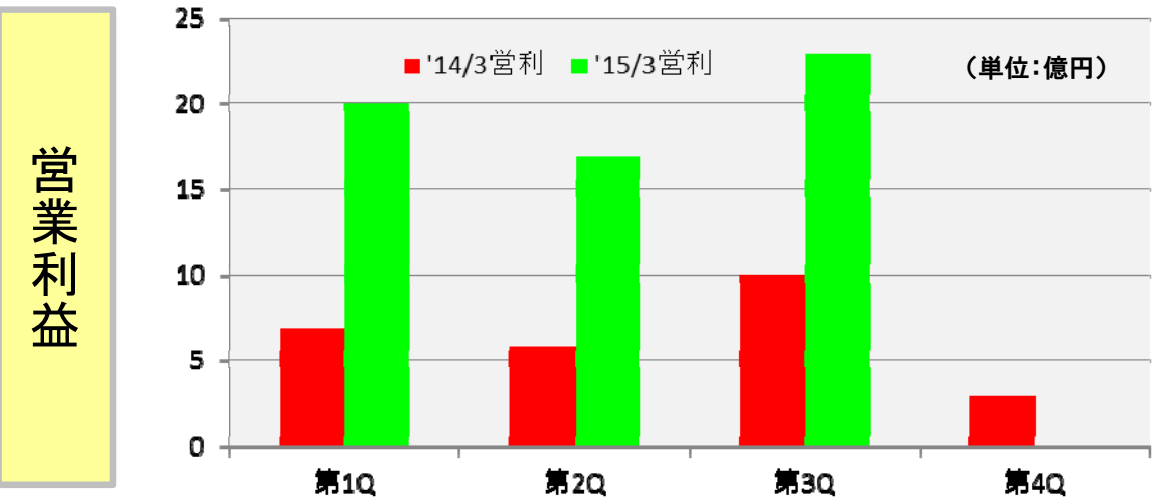
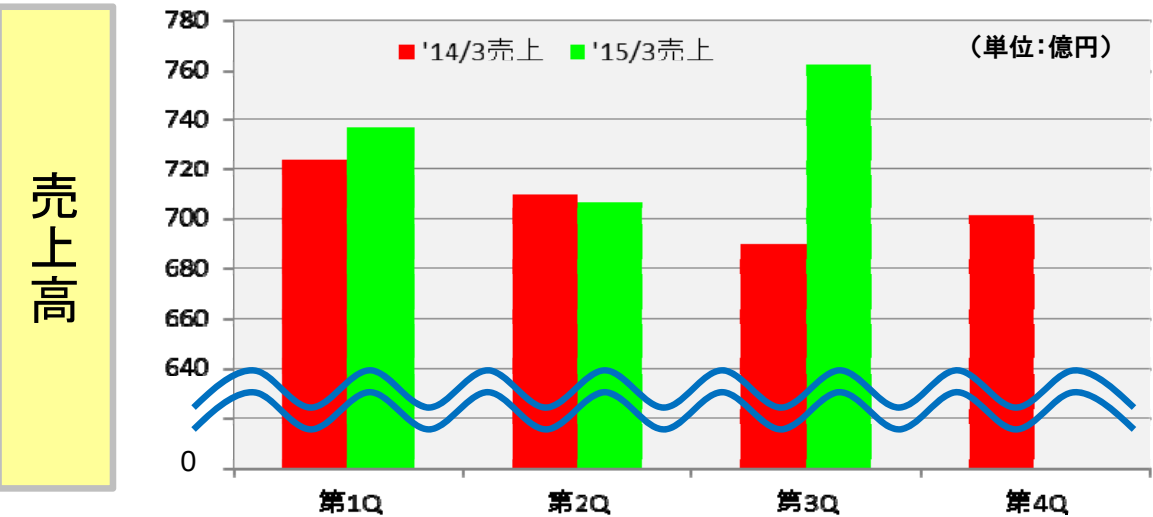


<水産物市況 えび (財務省貿易統計より算出)>



◆不採算事業撤退により若干の増収に止まるも、北米・ヨーロッパが好調に推移し、利益は伸長

(単位: 億円)	2015年3月期 第3四半期	2014年3月期 第3四半期	対前年同期比 増減額/率	2015年3月期 見通し(年間)	年間見通しに 対する進捗率
売上高	2,207	2,124	82 103.9%	2,853	77.4%
営業利益	61	24	36 251.6%	64	95.8%



【第3四半期総括】

- ・不採算事業撤退によりヨーロッパ、アジアで減収となるも、全エリアで増益
- ・北米: 工場集約や不採算アイテム見直し、業務用冷食の販売拡大などで増益
- ・ヨーロッパ: 販売拡大と生産性向上
- ・チルド事業: 工程見直しによる生産性向上
- ・国内: 原料すりみアップや円安進行によるコストアップ、販促費の高止まりをヒット商品で一部カバー



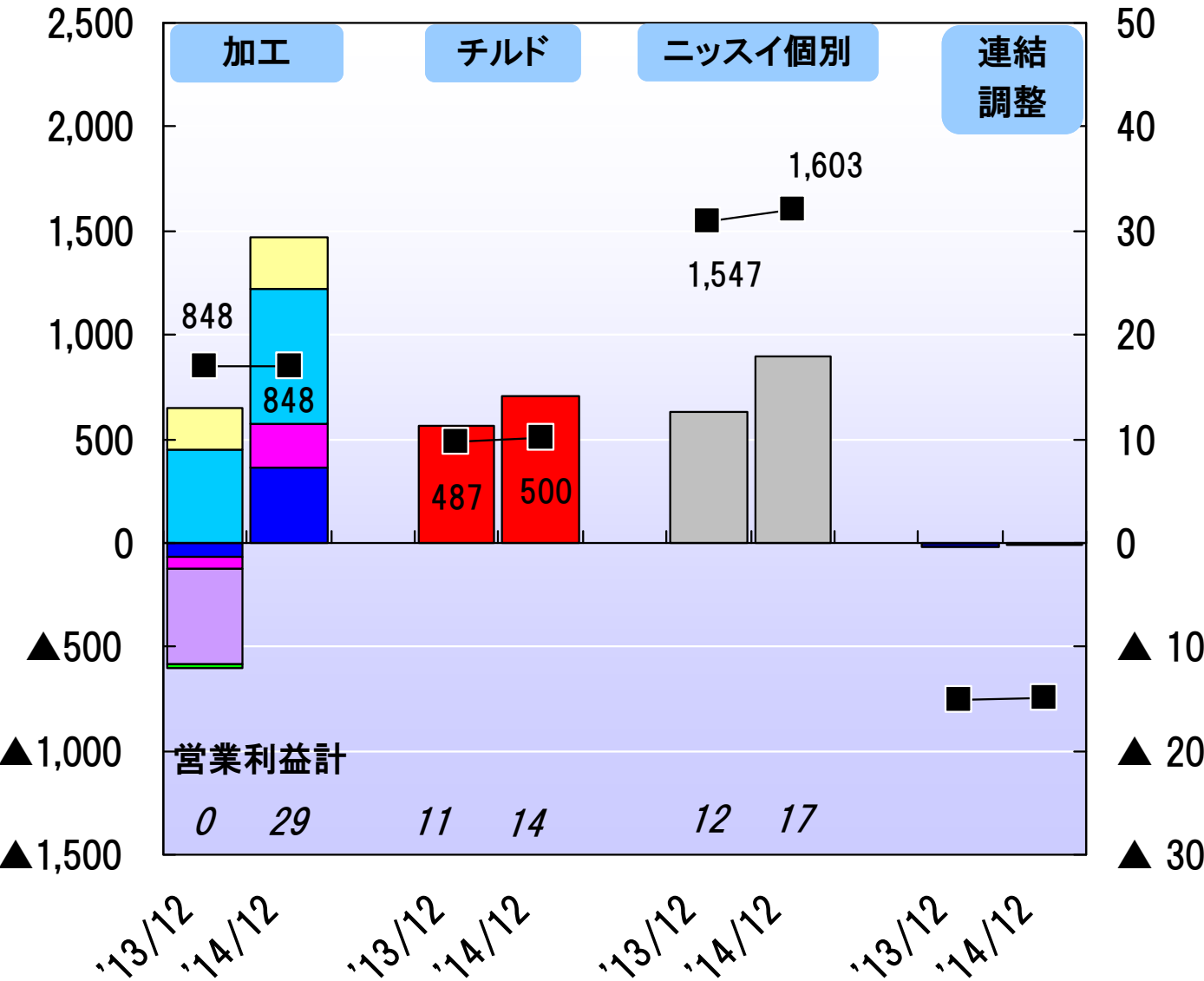
食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)



売上高(折れ線グラフ)

(単位:億円)

営業利益(棒グラフ)



主な増減要因

【加工】

- ・ドイツ、中国の不採算事業からの撤退・縮小が収支好転に寄与
- ・北米
工場集約と重点アイテムへの傾注などコスト削減への取り組み
大手レストランチェーン向けの販売数量増加と価格改定効果

・ヨーロッパ

チルド製品の販売伸長、生産性の向上

【チルド】

- ・チルド弁当、サラダ等の販売伸長
- ・生産工程の見直しによる生産性の向上

【ニッスイ個別】

- ・太ちくわ、「妖怪ウォッチ」等、ねり製品・魚肉ソーセージなどが好調

※加工、チルドのグラフは連結子会社の合計を記載

※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

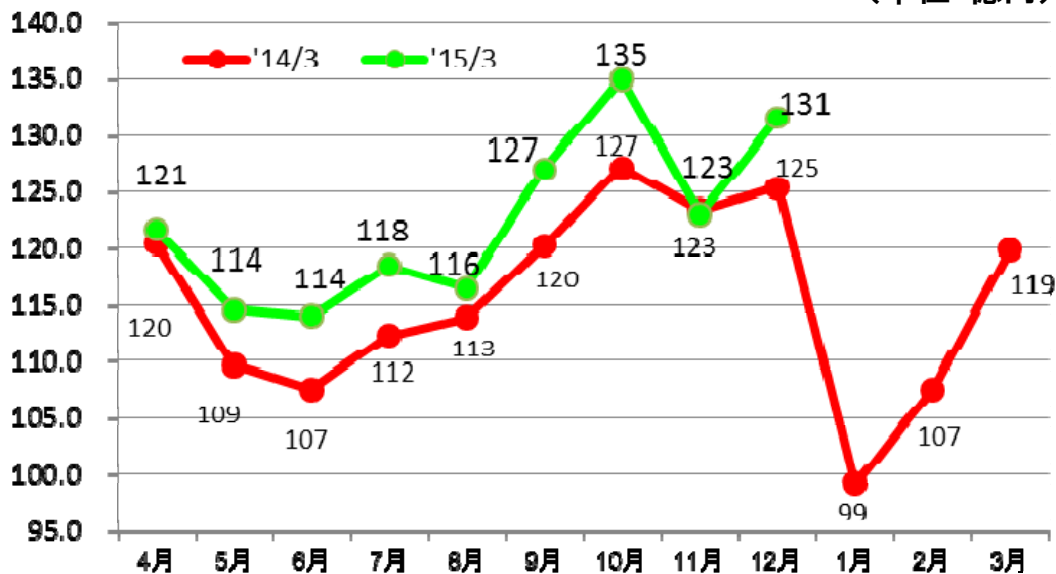
※営業利益の連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる

食品事業 ニッスイ個別(前年同期比)



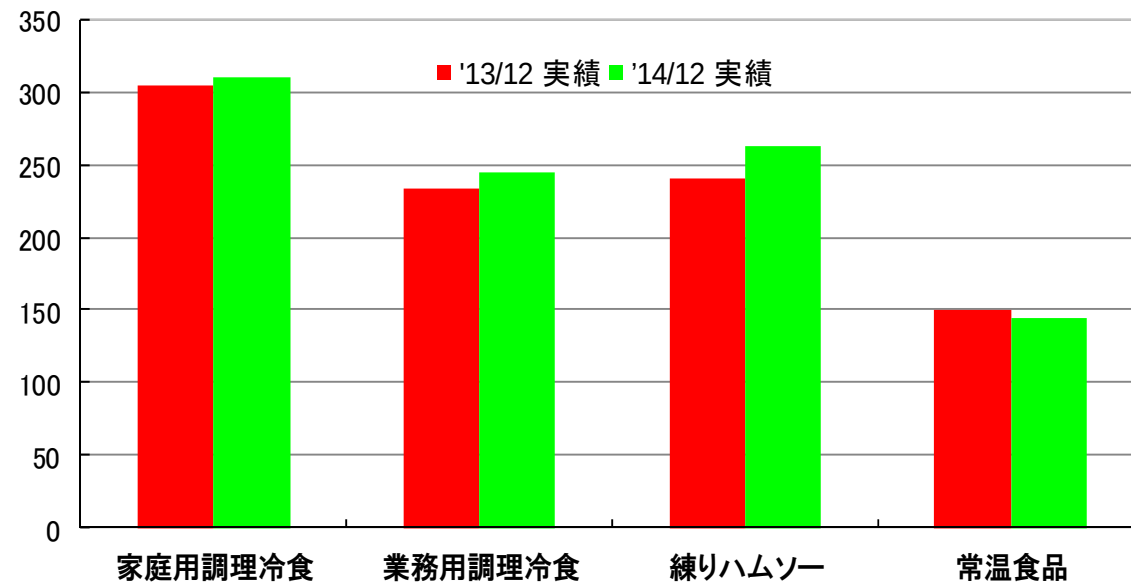
<売上高(月別)>

(単位:億円)



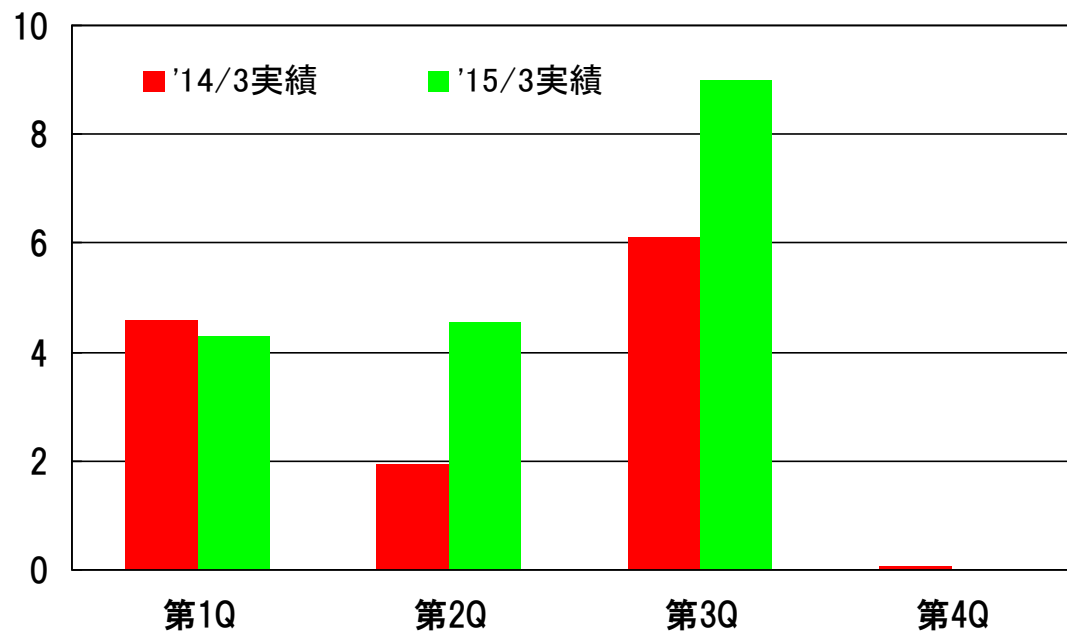
<カテゴリー別 売上高(前年同期比)>

(単位:億円)

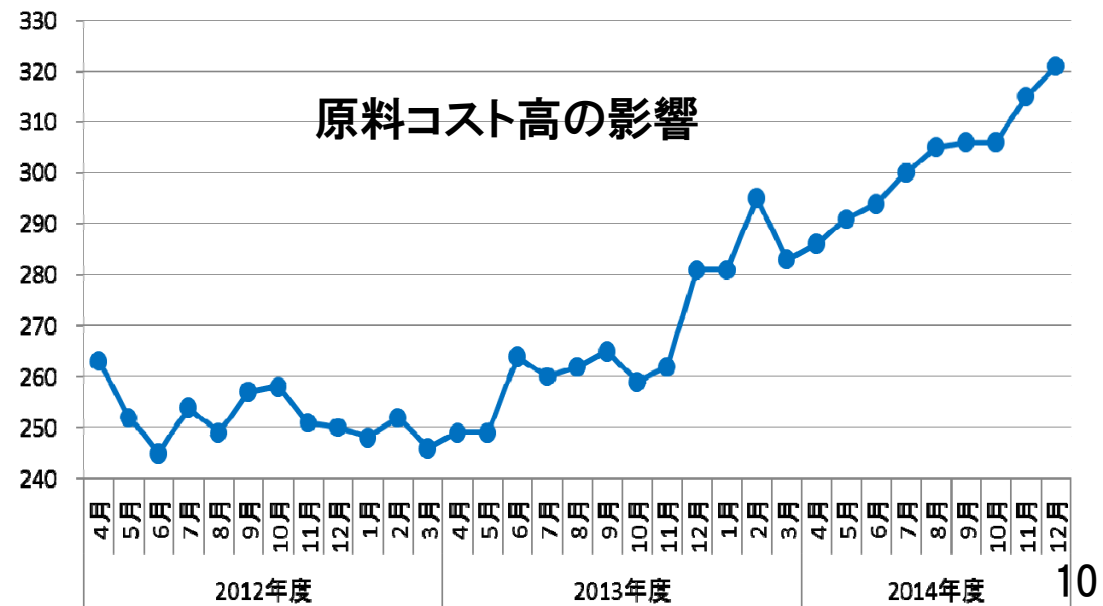


<営業利益(四半期別)>

(単位:億円)



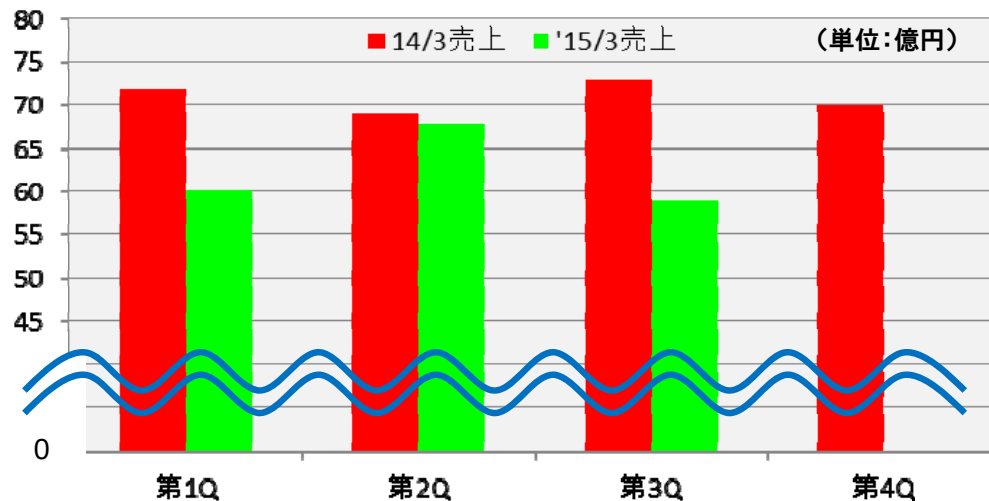
<冷凍すりみ輸入価格推移 (財務省貿易統計より算出)>



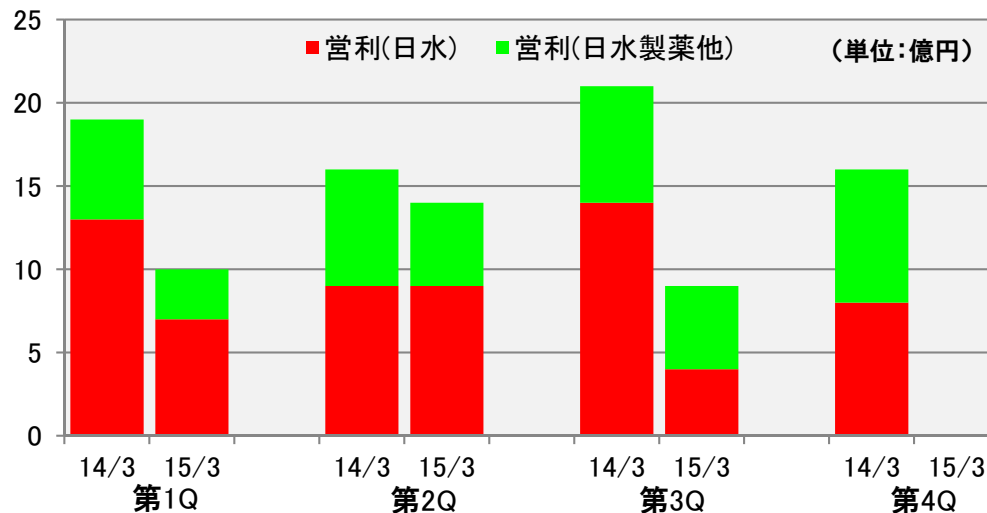
◆2年に1度の薬価改定および後発品使用促進策の強化等の影響により、減収・減益

(単位:億円)	2015年3月期 第3四半期	2014年3月期 第3四半期	対前年同期比 増減額/率	2015年3月期 見通し(年間)	年間見通しに 対する進捗率
売上高	187	215	▲ 28 87.0%	262	71.6%
営業利益	36	58	▲ 22 62.4%	43	84.9%

売上高



営業利益



【第3四半期総括】

- ・医薬原料
2年に一度の薬価改定、および政府主導による後発品使用促進策の強化等の影響により、売上数量と粗利が大幅に縮小
- ・機能性食品
通販事業拡大を目指して広告宣伝費を投入するも、販売数量が伸び悩む
- ・(グループ)
臨床診断薬、医薬品での販売低迷



<薬価改定の影響>

2年に1度の薬価基準改定に伴い、医薬品原料販売単価を引き下げ

2015年3月期 第3四半期決算への影響⇒粗利減少額 対前年同期比 ▲約5億円

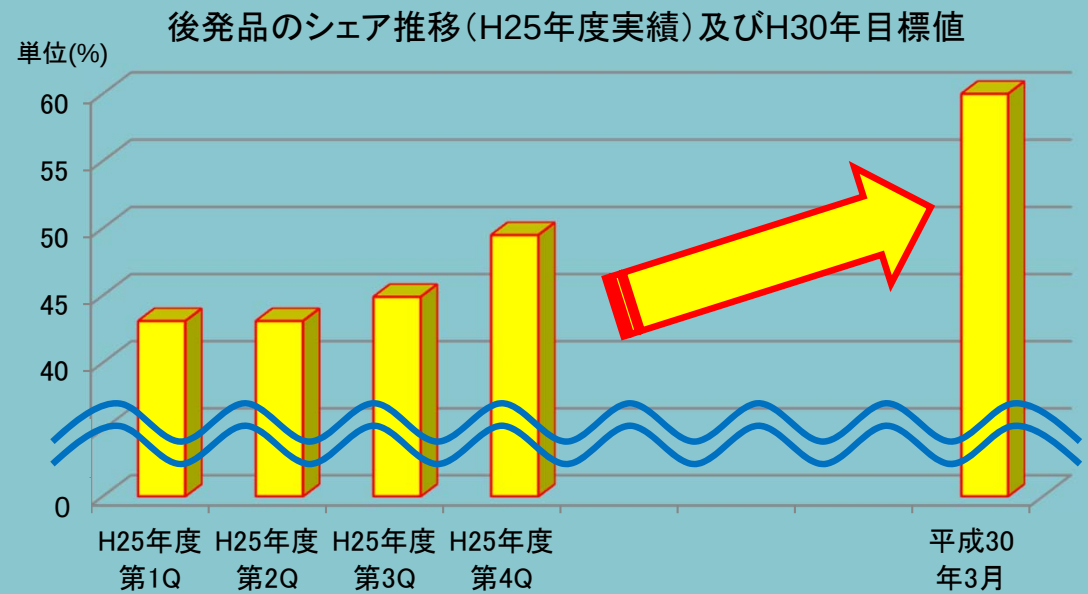
<後発品使用促進策の強化等の影響>

後発品使用促進策の強化等を背景に、
先発品の販売が苦戦

2015年3月期 第3四半期決算への影響
⇒粗利減少額 対前年同期比 ▲約8億円



過去の薬価改定では薬価引下げによる減少額を販売拡大でカバーしてきたが、今回は後発品が大きく拡大し、販売数量減少



出典: 日本ジェネリック製薬協会数値を加工して作成

<機能性食品>

・通販事業拡大を狙った広告宣伝費の投入するも、販売数量が伸び悩む ▲約3億円

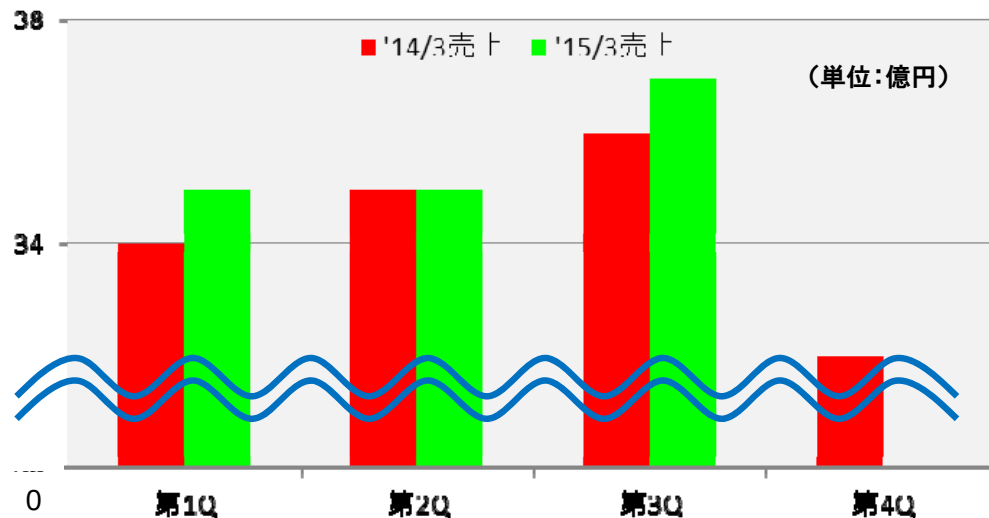
◆前年同期比で増収・増益

(単位:億円)	2015年3月期 第3四半期	2014年3月期 第3四半期	対前年同期比 増減額/率		2015年3月期 見通し(年間)	年間見通しに 対する進捗率
売上高	108	106	2	102.4%	144	75.6%
営業利益	13	13	0	104.1%	17	82.0%

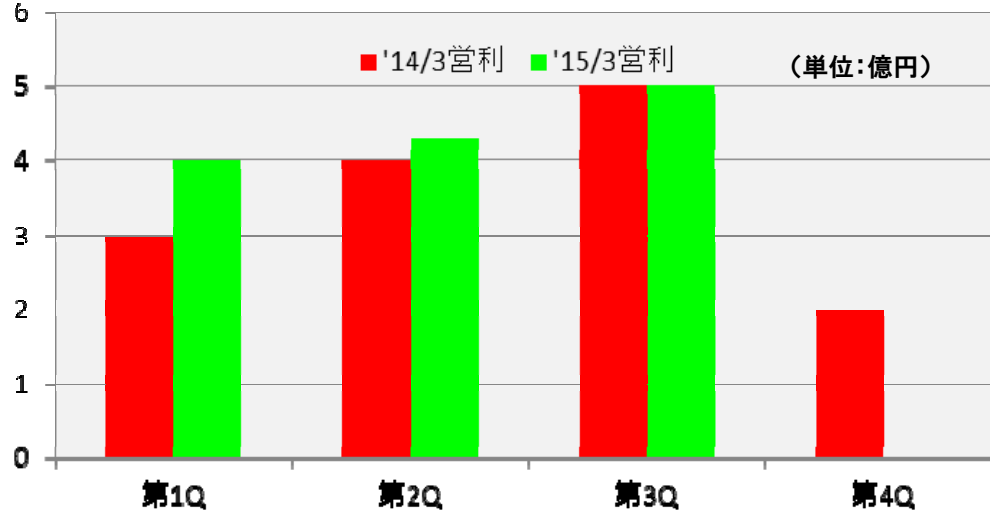
【第3四半期総括】

- ・電力料や運送費のコストが増加するも、保管料収入増加等により収支安定

売上高



営業利益



連結損益計算書(前年同期比)

(単位:億円)

	2015年3月期 第3四半期実績	売上高比 (%)	2014年3月期 第3四半期実績	売上高比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	4,721		4,486		234	5.2
売上総利益	1,014	21.5	944	21.0	70	7.4
販売費・一般管理費	843		827		16	
営業利益	170	3.6	116	2.6	53	45.9
営業外収益	64		31		33	
営業外費用	27		35		▲8	
経常利益	207	4.4	112	2.5	95	84.5
特別利益	4		20		▲16	
特別損失	25		21		3	
税金等調整前四半期純利益	186	4.0	111	2.5	74	67.2
法人税等	43		39		4	
法人税等調整額	26		4		21	
少数株主損益調整前四半期純利益	116		66		49	
少数株主利益	10		8		2	
四半期純利益	105	2.2	58	1.3	47	80.4

主な増減要因

【営業外収益・費用】

有価証券売却益 約12億円増加
持分法による
投資利益 約29億円増加 等

主な内訳

【特別利益・損失】

2015年3月期(当期)

- 関係会社株式売却損 約11億円
- 急激な環境変化による養殖
まぐろの斃死による損失
約8億円

2014年3月期(前期)

- 固定資産売却益 約14億円
- 減損損失戻入益 約3億円
- 関係会社株式売却損 約7億円
- 関係会社出資金売却損
約7億円

連結貸借対照表(前期末比)



(単位:億円)

主な増減要因

資産	+382	流動資産	+416	現金及び預金	+35
				受取手形及び売掛金	+170
				商品及び製品	+52
				仕掛品	+27
				その他	+111
		固定資産	▲33	有形固定資産	+23
				無形固定資産	▲17
				投資その他の資産	▲40
負債	+213	流動負債	+245	支払手形及び買掛金	+46
				短期借入金	+146
				その他	+19
		固定負債	▲32	長期借入金	▲31
				退職給付に係る負債	▲4
		純資産	+169	利益剰余金	+105
				その他有価証券評価差額金	+25
				為替換算調整勘定	+24
				少数株主持分	+7

流動資産 2,513 (+416)	流動負債 2,207 (+245)
	固定負債 1,473 (▲32)
固定資産 2,214 (▲33)	純資産 1,047 (+169)
総資産 4,728 (+382)	うち自己資本 865 (+161) 自己資本比率 18.3%

自己資本比率 '14/3 16.2% → '14/12 18.3%

()内の数字は前期末比増減

連結キャッシュ・フロー計算書(前年同期比)



(単位:億円)

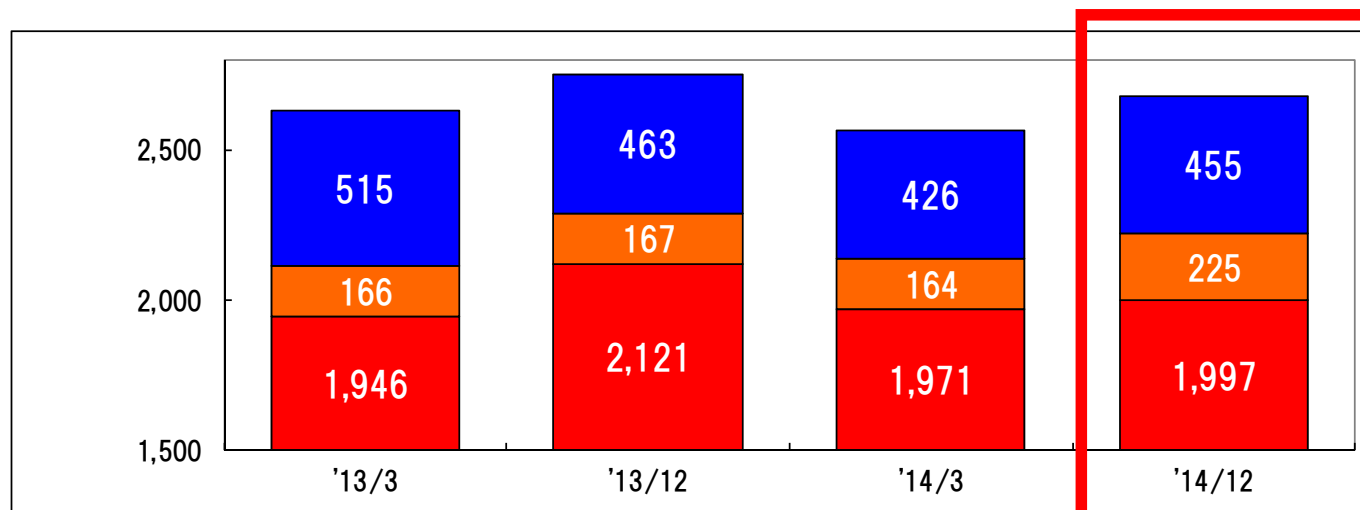
	2015年3月期 第3四半期	2014年3月期 第3四半期	増減	内訳	2015年3月期 第3四半期	2014年3月期 第3四半期	増減
営業活動によるCF	52	42	9	税金等調整前四半期純利益	186	111	74
				減価償却費	114	120	▲6
				貸倒引当金の増減額	3	▲22	25
				持分法による投資損益	▲21	7	▲29
				災害損失	8	—	8
				減損損失戻入益	—	▲3	3
				関係会社株式売却損	11	7	4
				関係会社出資金売却損	—	7	▲7
				運転資本の増減額	▲163	▲117	▲46
				法人税等の支払額	▲49	▲47	▲2
				その他	▲32	▲20	▲12
投資活動によるCF	▲121	▲124	3	有形固定資産の取得による支出	▲111	▲95	▲16
				有形固定資産の売却による収入	4	33	▲28
				投資有価証券の取得による支出	▲105	▲48	▲57
				投資有価証券の売却による収入	96	23	73
				投資有価証券の償還による収入	30	—	30
				短期貸付金の増減額	▲25	▲38	12
財務活動によるCF	89	111	▲22	短期借入金の純増減額	134	247	▲112
				長期借入れによる収入	90	86	3
				長期借入金の返済による支出	▲127	▲214	87
現金等の期末残高	161	218	▲57				

※営業活動によるCFの「その他」には賞与引当金の減少額等が含まれる。

連結借入金・純金利負担

(単位: 億円)

- 海外関係会社
- 国内関係会社
- ニッスイ個別



前期末
比増減

+28

+60

+25

借入金合計	2,626	2,751	2,561	2,677	+115
短期借入金	1,307	1,494	1,278	1,425	+146
長期借入金	1,319	1,256	1,282	1,251	▲31
短期借入金平均利率	0.9%	0.7%	0.7%	0.6%	▲0.1%
長期借入金平均利率	1.4%	1.4%	1.4%	1.4%	▲0.0%
純金利負担	18.1	14.6	16.9	12.4	
対営業利益純金利負担率	31%	13%	12%	7%	
支払利息	37.6	25	32.7	22.2	
受取利息	9.3	3.6	4.7	2.7	
受取配当金	10.1	6.7	11.0	6.9	
為替レート(US\$1)	@86.58(12月末)	@97.75(9月末)	@105.39(12月末)	@109.45(9月末)	

※為替レート換算による
影響額

前期末比 +25億円
前年同期末比 +57億円

個別損益計算書(前年同期比)



(単位:億円)

	2015年3月期 第3四半期実績	売上高比 (%)	2014年3月期 第3四半期実績	売上高比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	2,715		2,577		137	5.4
売上総利益	514	19.0	511	19.8	3	0.7
販売費・一般管理費	481		481		▲0	
営業利益	33	1.2	29	1.2	3	13.3
営業外収益	34		26		7	
営業外費用	22		25		▲2	
経常利益	45	1.7	31	1.2	13	44.0
特別利益	0		15		▲15	
特別損失	3		11		▲8	
税引前当期純利益	42	1.6	35	1.4	7	20.2
法人税等	3		1		1	
法人税等調整額	10		4		6	
当期純利益	28	1.1	29	1.1	▲0	▲2.3

主な増減要因

【販売費・一般管理費】

販売費増加 約9億円
管理費減少 約10億円
(退職給付費用減少)

【営業外収益・費用】

受取配当金増加 約4億円
支払利息減少 約1億円等

主な内訳

【特別利益・損失】

2015年3月期(当期)
- 関係会社株式評価損 約2億円

2014年3月期(前期)

- 固定資産売却益 約13億円
- 投資有価証券売却益 約2億円
- 関係会社出資金売却損 約5億円
- 関係会社債権放棄損 約3億円

第3四半期決算は概ね順調に推移しましたが、為替の影響や南米の鮭鱒養殖事業における在池魚の時価評価が確定しないこと、魚価の動向が不透明であることなどから、年間の見通しについては連結/個別とも変更しておりません。

連結

	2015年3月期 第3四半期実績 売上高比	2015年3月期 修正公表値 売上高比	進捗率
売上高	4,721	6,100	77.4%
営業利益	170 3.6%	175 2.9%	97.4%
経常利益	207 4.4%	200 3.3%	103.9%
当期純利益	105 2.2%	105 1.7%	100.5%

個別

	2015年3月期 第3四半期実績 売上高比	2015年3月期 年間公表値 売上高比	進捗率
売上高	2,715	3,280	82.8%
営業利益	33 1.2%	34 1.0%	99.4%
経常利益	45 1.7%	51 1.6%	89.0%
当期純利益	28 1.1%	37 1.1%	78.0%

主要在外会社の 為替換算レート	2015年3月期 第3四半期実績 (9月末レート)	2015年3月期 修正計画レート
米ドル	109.45円	108.00円
ユーロ	138.87円	138.87円
デンマーククローネ	18.66円	18.66円

海外は食品事業が堅調に推移するものの、国内では引き続きファイン事業の苦戦が予想され、全体として第4四半期は低調に推移する見込み。



<水産事業>

- ・南米の鮭鱒養殖事業で在池魚評価益が下振れする想定に加え、漁撈事業では南だらの漁獲が低調に推移。
- ・北米のすけそうだら事業は10月に漁期(Bシーズン)が終了しており、今後は収支がマイナスとなる。
- ・国内では不需要期に入り、魚価の下落懸念と販売数量減が見込まれる。

<食品事業>

- ・北米の家庭用冷凍食品会社及び業務用冷凍食品会社は好調を維持。
- ・欧州についても堅調に推移。
- ・国内では、円安進行とすりみ価格高騰などによるコストアップ、値上げ効果は実質的に翌期となるため収支悪化の懸念。

<ファイン事業>

- ・後発品の影響による数量減と工場稼働の低下、機能性食品の販売伸び悩みによる苦戦もあり、苦しい収支が続く見込み。

見通しに関する注意事項



本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因の変化により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社

2015年2月5日

証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR室広報IR課

03-6206-7044

<http://www.nissui.co.jp/ir/index.html>



【訂正前】



2015年3月期 第3四半期決算 決算短信補足資料

2015年2月5日
日本水産株式会社

◆前年同期比で増収・増益。

海外が順調に推移する中、円安の影響もあり国内の事業環境は引き続き厳しい状況。

【水産事業】 増収・増益

国内：販売価格は総じて堅調さを維持したものの円安の影響もあり、粗利が取りにくい環境。在庫の回転を上げることで売り上げを伸ばし、利益を確保。

海外：北米の助子増産に加え、南米の鮭鱒養殖事業での販売価格上昇や在池魚の評価益もあり収支大幅改善。東南アジア販社で回収懸念債権への引当て。

【食品事業】 増収・増益

国内：原料すりみ価格の上昇や、円安進行によるコストアップ、販促費の負担が依然重いも、ねり製品・魚肉ソーセージなどが好調。チルド事業も堅調に推移。

海外：不採算事業縮小による増益に加え、北米の収支大幅改善。欧州も好調さ維持。

【ファイン事業】 減収・減益

個別、グループとも苦戦。ニッスイ個別は、薬価改定および政府主導による後発品使用促進策の影響により、粗利／売上数量の減少。成長を狙う機能性食品分野は販売数量が期待に反し伸び悩む。グループは、医薬事業・化粧品事業における消費税率引き上げ前の、駆け込み需要の反動からの回復遅れ。

◆水産・食品事業は増収・増益、ファイン事業は減収・減益。

(単位:億円)

	2015年3月期 第3四半期	2014年3月期 第3四半期	対前年同期比 増減額/率(%)	
売上高	4,721	4,486	234	105.2
水産事業	2,106	1,860	245	113.2
食品事業	2,207	2,124	82	103.9
ファイン事業	187	215	▲ 28	87.0
物流事業	108	106	2	102.4
その他	111	179	▲ 68	62.0
営業利益	170	116	53	145.9
水産事業	74	41	33	178.9
食品事業	61	24	36	251.6
ファイン事業	36	58	▲ 22	62.4
物流事業	13	13	0	104.1
その他	5	8	▲ 3	62.5
全社経費	▲ 21	▲ 29	8	72.3
経常利益	207	112	95	184.5
四半期純利益	105	58	47	180.4

2015年3月期 見通し(年間)	年間見通しに 対する進捗率(%)
6,100	77.4
2,663	79.1
2,853	77.4
262	71.6
144	75.6
178	62.4
175	97.4
74	101.2
64	95.8
43	84.9
17	82.0
7	72.7
▲ 30	71.3
200	103.9
105	100.5

※2015年3月期見通し(年間)は、第2四半期決算発表時に公表した修正計画値(次頁以下同様)

セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結 計
水産事業	1,657 (113)	333 (58)	219 (70)	123 (20)	368 (35)	2,702 (298)	▲595 (▲53)	2,106 (245)
	1,543	274	149	102	332	2,403	▲542	1,860
食品事業	2,365 (70)	435 (42)		53 (▲15)	140 (▲24)	2,995 (72)	▲787 (9)	2,207 (82)
	2,294	393		68	165	2,922	▲797	2,124
ファイン事業	199 (▲28)			2 (0)		201 (▲28)	▲14 (0)	187 (▲28)
	228			1		229	▲14	215
物流事業	177 (5)					177 (5)	▲68 (▲3)	108 (2)
	171					171	▲65	106
その他事業	146 (▲64)			1 (0)		147 (▲64)	▲36 (▲3)	111 (▲68)
	210			1		211	▲32	179
仮計	4,545 (96)	768 (100)	219 (70)	179 (5)	509 (11)	6,223 (284)		
	4,449	667	149	174	497	5,939		
連結調整	▲1,115 (▲21)	▲144 (▲14)	▲149 (▲41)	▲86 (15)	▲5 (11)		▲1,502 (▲50)	
	▲1,094	▲130	▲107	▲102	▲16		▲1,452	
連結 計	3,429 (74)	624 (86)	70 (28)	92 (21)	503 (22)			4,721 (234)
	3,354	537	41	71	480			4,486

※上段は当四半期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

※連結除外会社及び新規連結会社の影響額 ▲64億円(Leuchtturm▲42、山東山孚▲26、弓ヶ浜水産+4 他)

※為替換算による売上高への影響額(試算) 140億円

セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結 計
水産事業	28 (1)	15 (8)	39 (35)	▲8 (▲8)	7 (1)		83 (38)	▲8 (▲5)	74 (33)
	27	6	4	0	6		45	▲3	41
食品事業	34 (8)	11 (13)		2 (1)	13 (13)		61 (36)	▲0 (0)	61 (36)
	26	▲2		0	▲0		24	▲0	24
ファイン事業	35 (▲22)			0 (0)			36 (▲22)	0 (0)	36 (▲22)
	58			0			58	0	58
物流事業	13 (0)						13 (0)	0 (▲0)	13 (0)
	12						12	0	13
その他事業	4 (▲2)			0 (▲0)			4 (▲2)	0 (▲0)	5 (▲3)
	6			0			7	1	8
全社経費						▲21 (8)	▲21 (8)	0 (▲0)	▲21 (8)
						▲30	▲30	0	▲29
仮計	117 (▲14)	26 (22)	39 (35)	▲5 (▲7)	21 (15)	▲21 (8)	177 (59)		
	132	3	4	1	5	▲30	118		
連結調整	1 (▲2)	0 (▲0)	▲2 (▲1)	▲0 (▲0)	▲5 (▲0)	▲0 (▲0)		▲7 (▲5)	
	3	0	▲1	0	▲4	▲0		▲1	
連結 計	119 (▲16)	26 (22)	37 (33)	▲6 (▲8)	16 (14)	▲22 (8)			170 (53)
	135	4	3	2	1	▲30			116

※上段は当四半期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる。

※連結除外会社及び新規連結会社による営業利益への影響額 +9億円

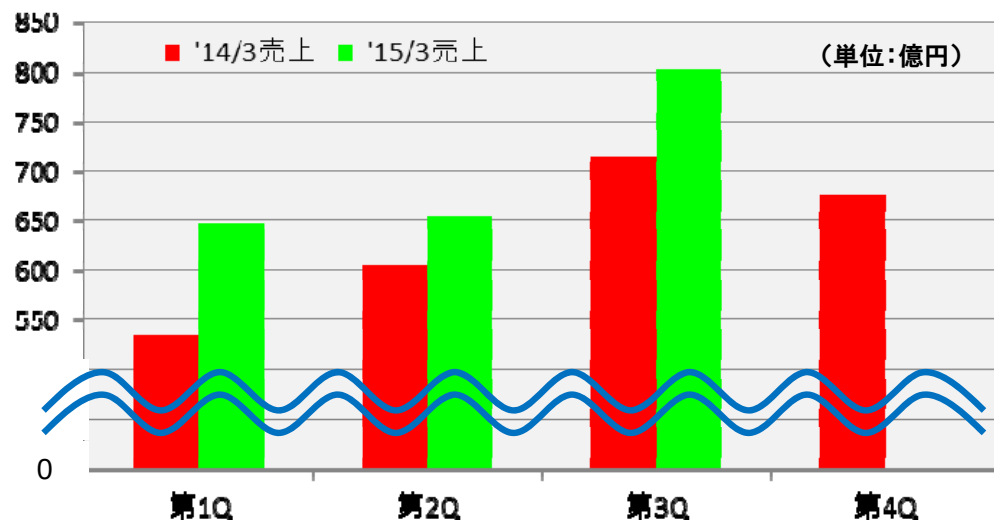
◆魚価は総じて高値を維持し、南米の鮭鱒養殖事業で販売価格上昇もあり、増収・増益

(単位:億円)	2015年3月期 第3四半期	2014年3月期 第3四半期	対前年同期比 増減額/率		2015年3月期 見通し(年間)	修正計画に対 する進捗率
売上高	2,106	1,860	245	113.2%	2,663	79.1%
営業利益	74	41	33	178.9%	74	101.2%

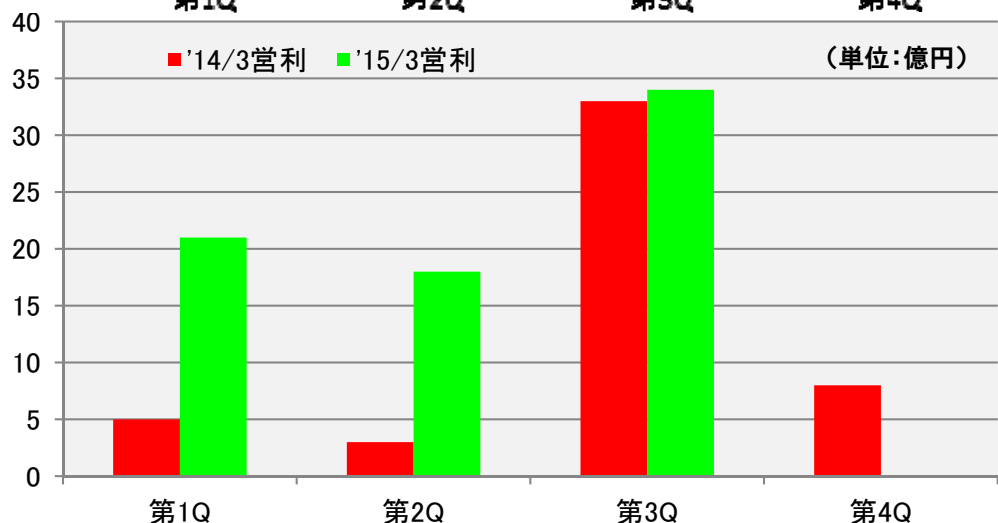
【第3四半期総括】

- ・ロシア禁輸や円安の進行などにより、水産物市況は堅調に推移
- ・日本:在庫コントロールの徹底と回転率アップによる増収により粗利確保
- ・南米:鮭鱒養殖事業が好調(在池魚の評価益含む)
- ・北米、ヨーロッパとも堅調に推移したが、東南アジア販社で回収懸念債権に引当て

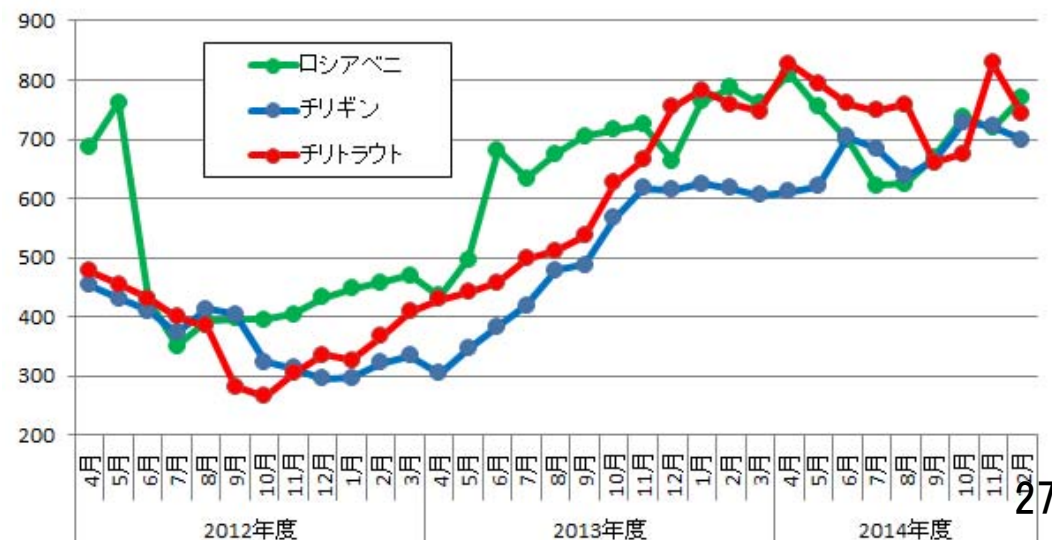
売上高



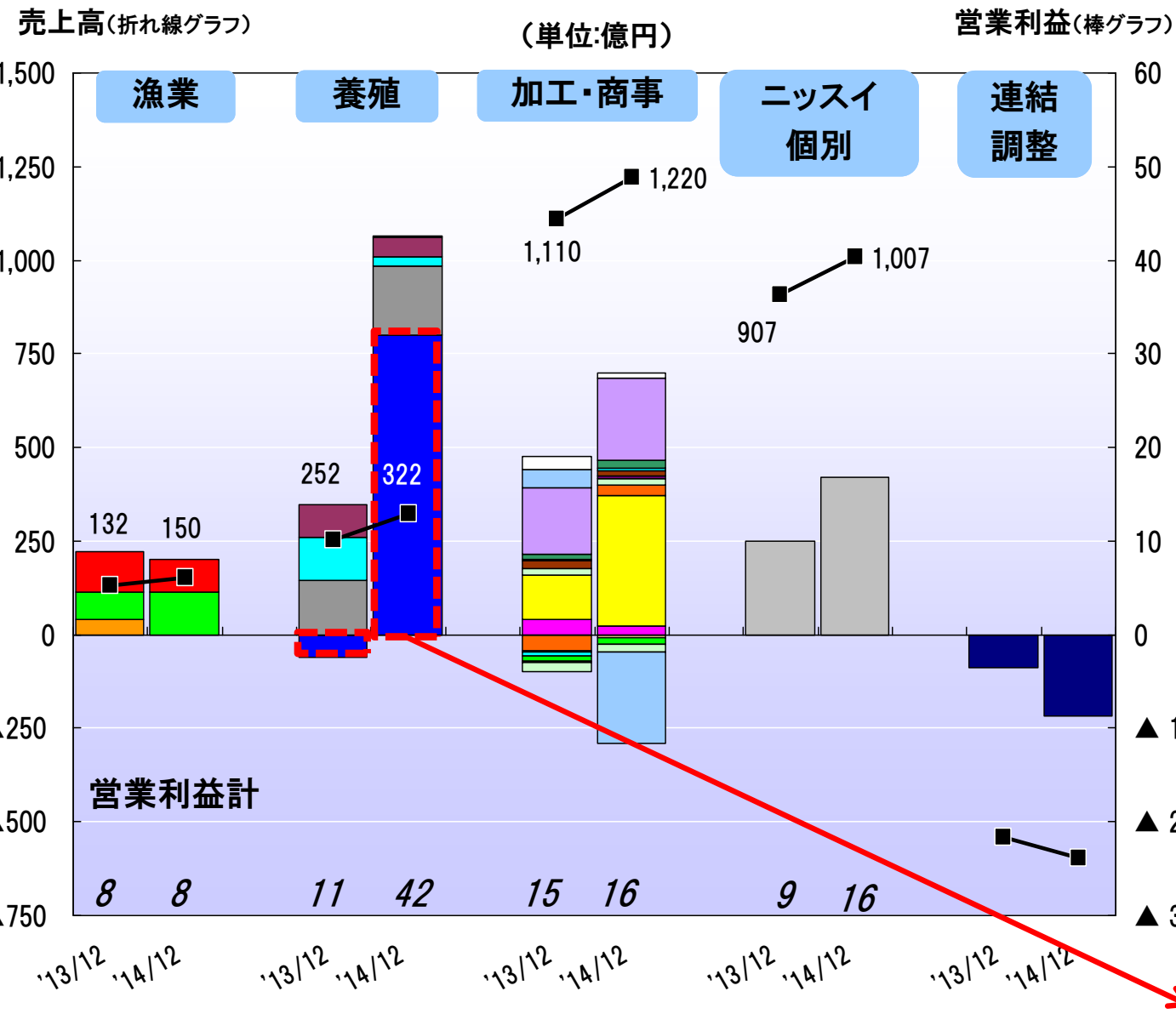
営業利益



＜水産物市況 鮭鱒 (財務省貿易統計より算出)＞



水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)



主な増減要因

【漁業】

- ・国内の漁撈事業
ぶりなどの漁獲は好調である一方、かつおの販売価格が低迷

【養殖】

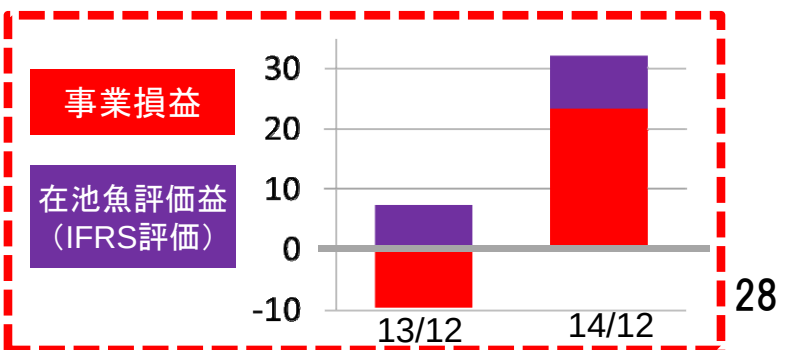
- ・国内養殖事業
ぶり:「若ぶり」好調、年末も販売価格堅調
まぐろ:販売価格低迷・販売数量は増加
- ・チリの鮭鱒養殖事業
販売価格の上昇、在池魚評価益の増加

【加工・商事】

- ・アメリカのすけそうだら事業
すりみ:販売価格上昇、助子:取扱数量増加
- ・欧州:えび、白身魚など魚価が高値で推移
- ・アジア:東南アジア販社において、回収が懸念される売掛債権への貸倒引当金計上

【ニッスイ個別】

- ・鮭鱒の販売価格など、ロシア禁輸措置や円安の進行などにより、総じて堅調に推移



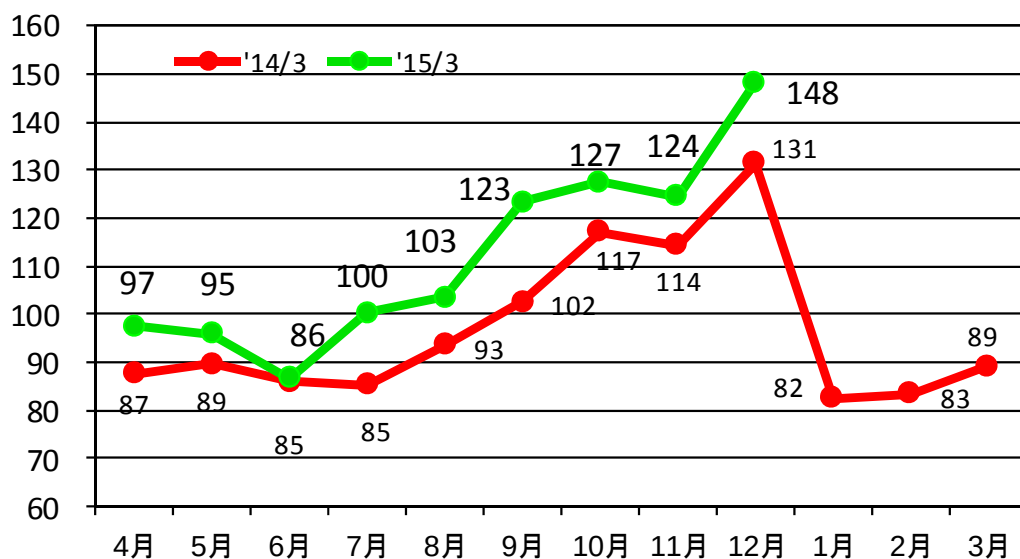
※漁業、養殖、加工・商事のグラフは連結子会社の合計を記載
※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値
※営業利益の連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる

水産事業 ニススイ個別(前年同期比)



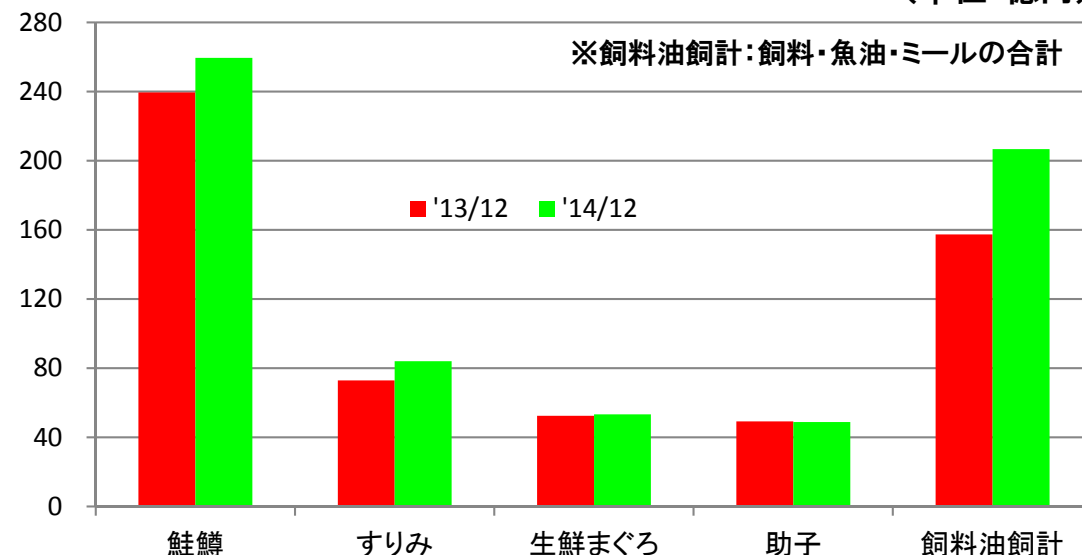
<売上高(月別)>

(単位:億円)



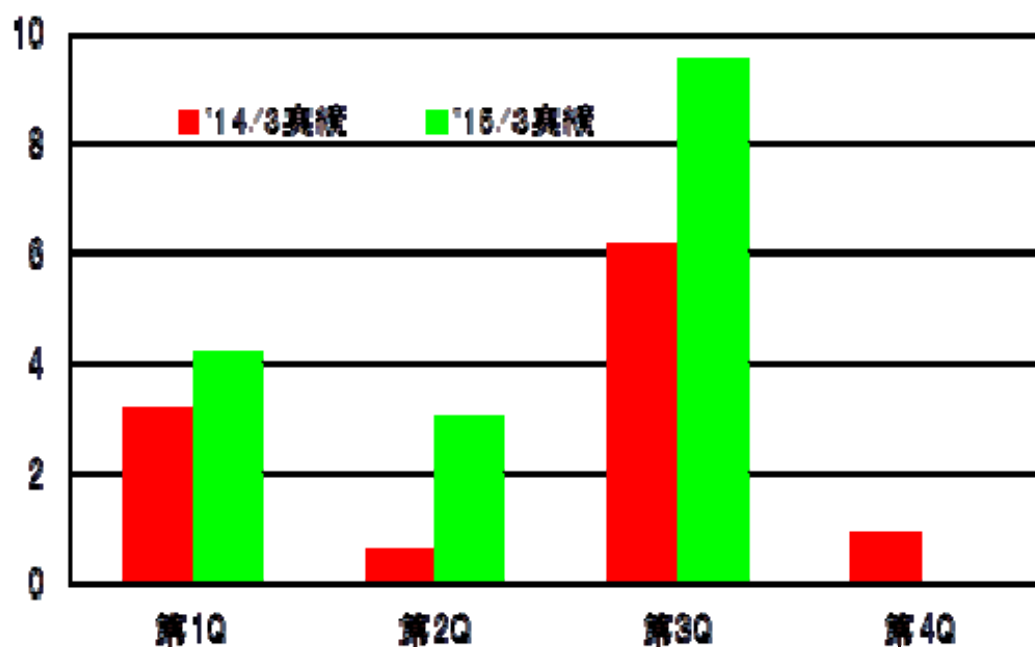
<主要魚種別 売上高(前年同期比)>

(単位:億円)



<営業利益(四半期別)>

(単位:億円)

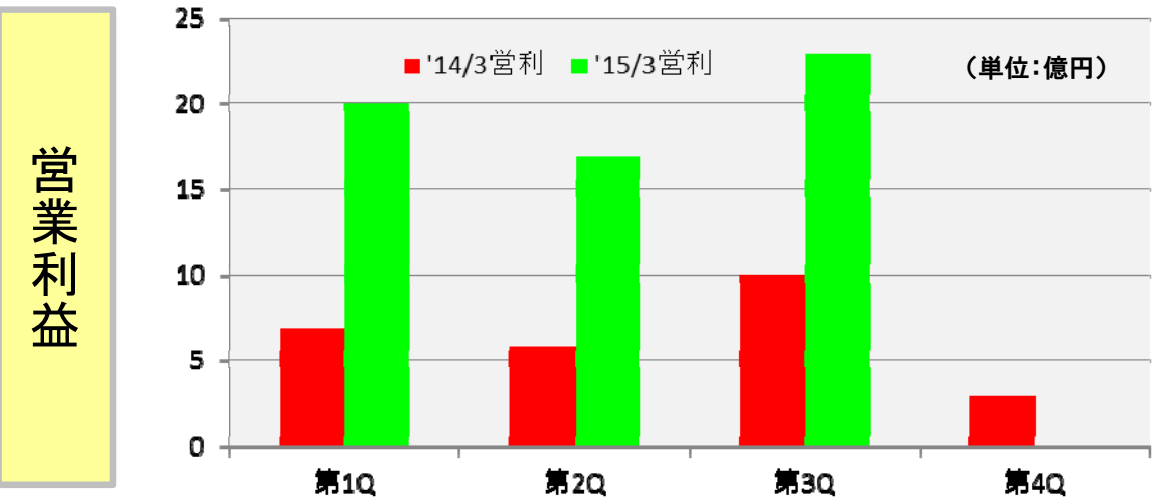
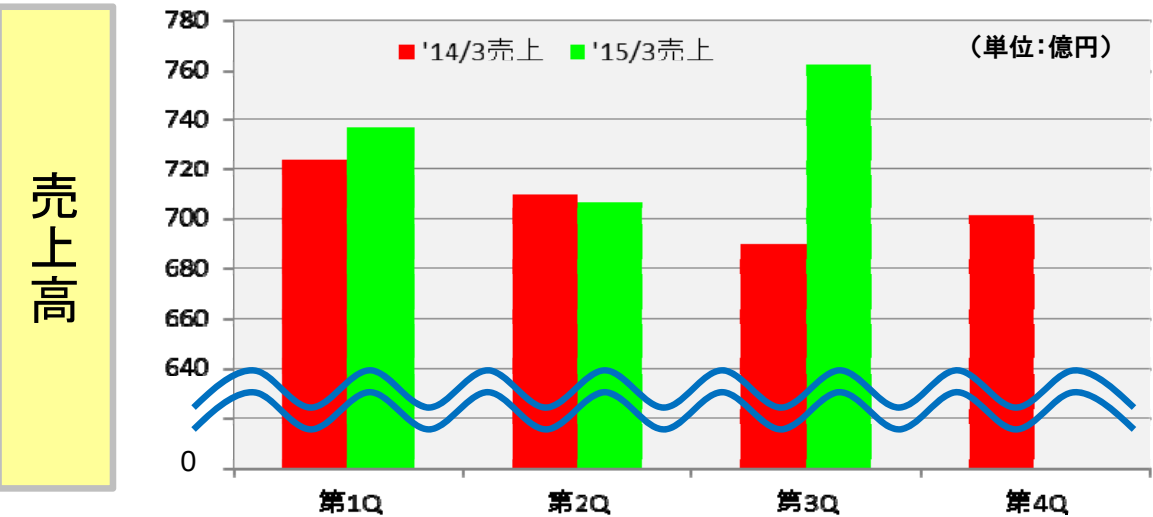


<水産物市況 えび (財務省貿易統計より算出)>



◆不採算事業撤退により若干の増収に止まるも、北米・ヨーロッパが好調に推移し、利益は伸長

(単位: 億円)	2015年3月期 第3四半期	2014年3月期 第3四半期	対前年同期比 増減額/率	2015年3月期 見通し(年間)	年間見通しに 対する進捗率
売上高	2,207	2,124	82 103.9%	2,853	77.4%
営業利益	61	24	36 251.6%	64	95.8%



【第3四半期総括】

- ・不採算事業撤退によりヨーロッパ、アジアで減収となるも、全エリアで増益
- ・北米: 工場集約や不採算アイテム見直し、業務用冷食の販売拡大などで増益
- ・ヨーロッパ: 販売拡大と生産性向上
- ・チルド事業: 工程見直しによる生産性向上
- ・国内: 原料すりみアップや円安進行によるコストアップ、販促費の高止まりをヒット商品で一部カバー



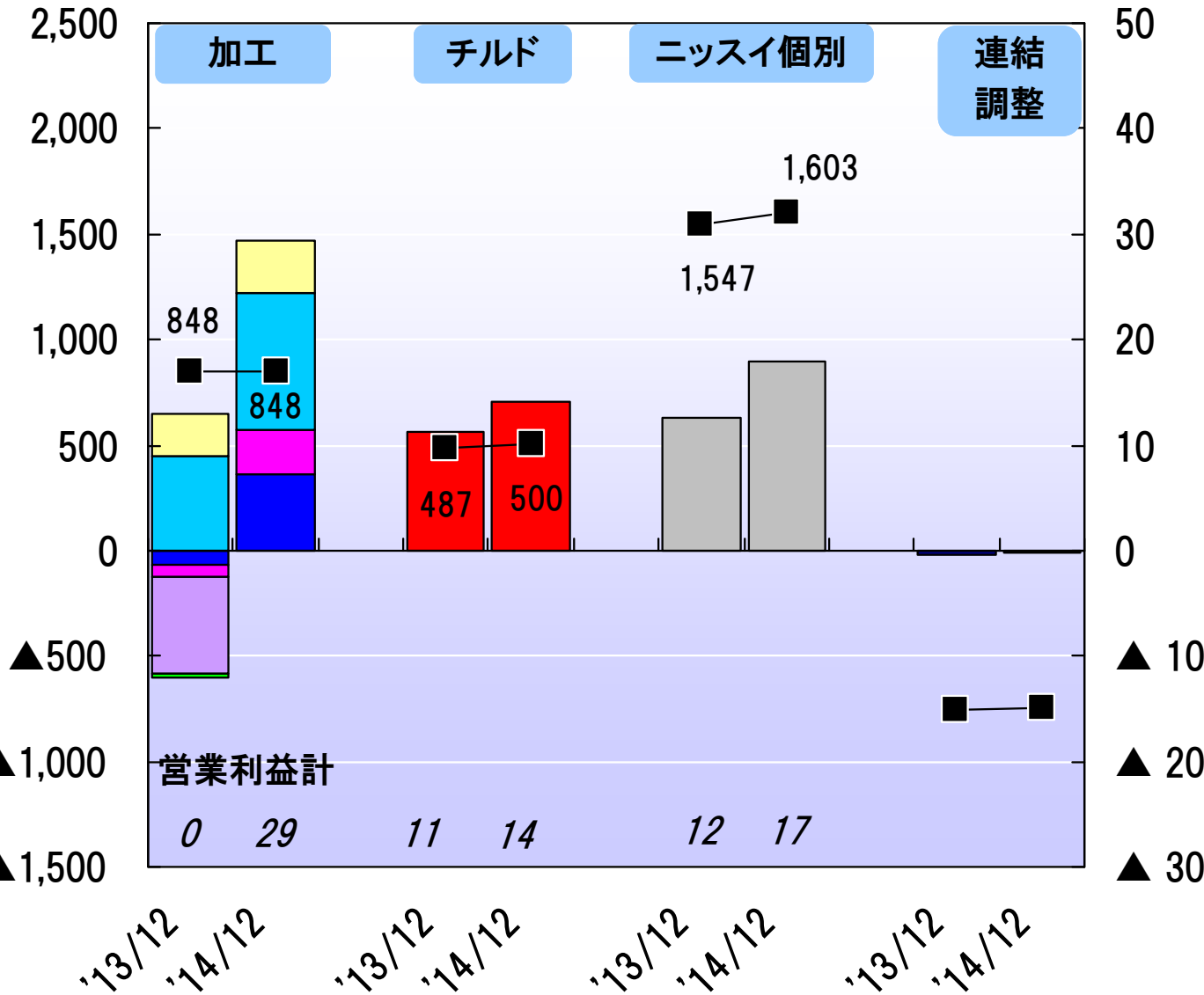
食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)



売上高(折れ線グラフ)

(単位:億円)

営業利益(棒グラフ)



主な増減要因

【加工】

- ・ドイツ、中国の不採算事業からの撤退・縮小が収支好転に寄与
- ・北米
工場集約と重点アイテムへの傾注などコスト削減への取り組み
大手レストランチェーン向けの販売数量増加と価格改定効果
- ・ヨーロッパ
チルド製品の販売伸長、生産性の向上

【チルド】

- ・チルド弁当、サラダ等の販売伸長
- ・生産工程の見直しによる生産性の向上

【ニッスイ個別】

- ・太ちくわ、「妖怪ウォッチ」等、ねり製品・魚肉ソーセージなどが好調

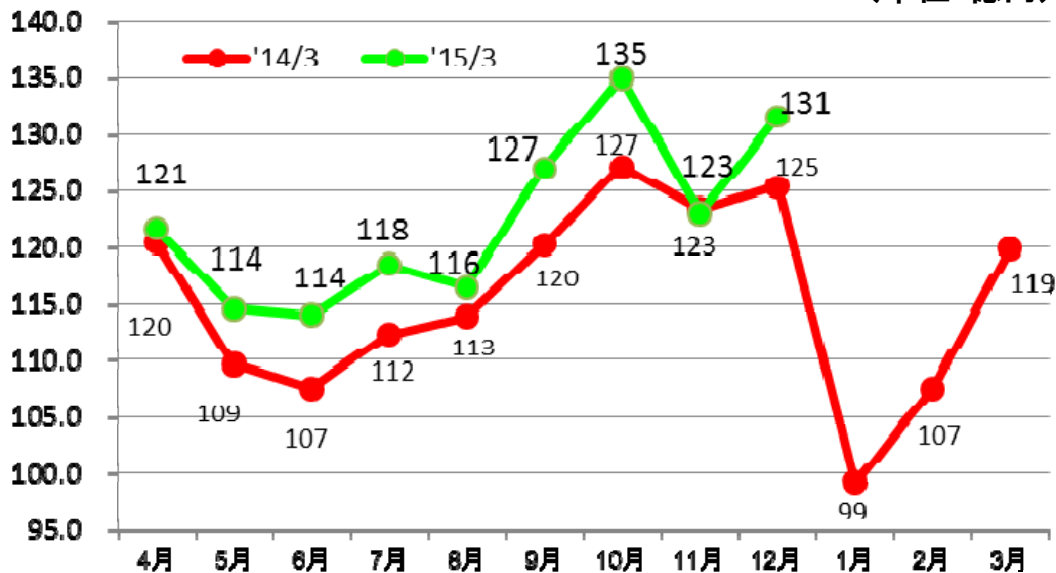
※加工、チルドのグラフは連結子会社の合計を記載
 ※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値
 ※営業利益の連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる

食品事業 ニッスイ個別(前年同期比)



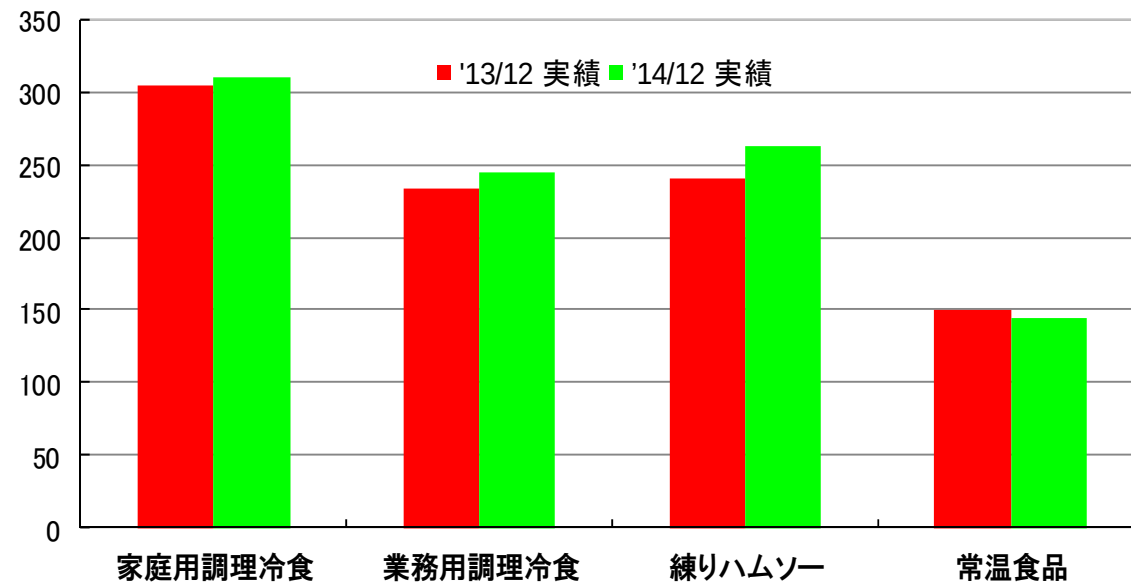
<売上高(月別)>

(単位:億円)



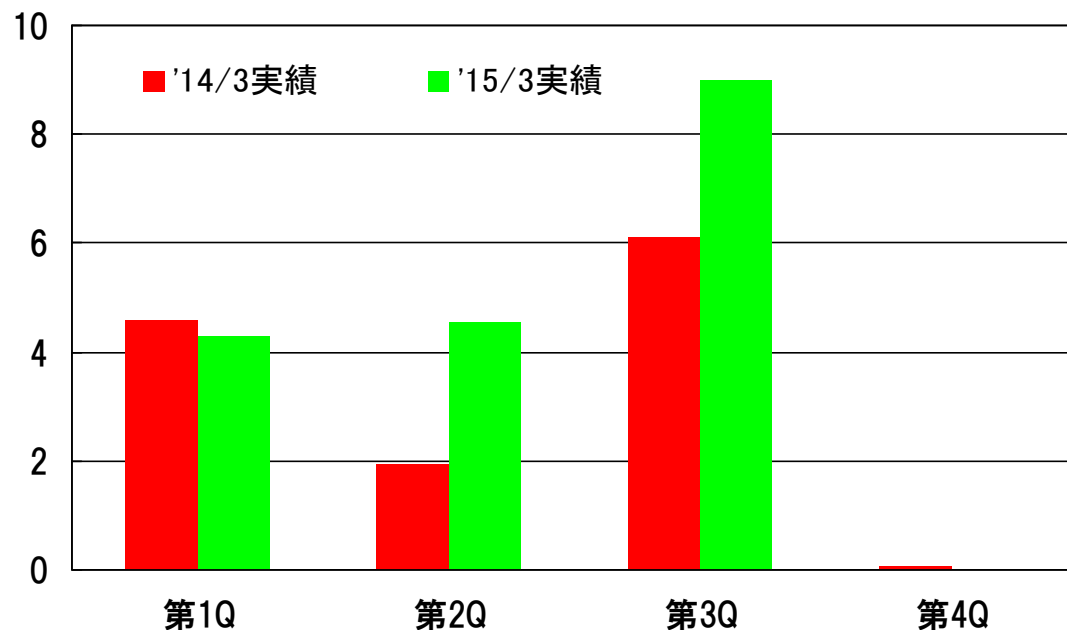
<カテゴリー別 売上高(前年同期比)>

(単位:億円)

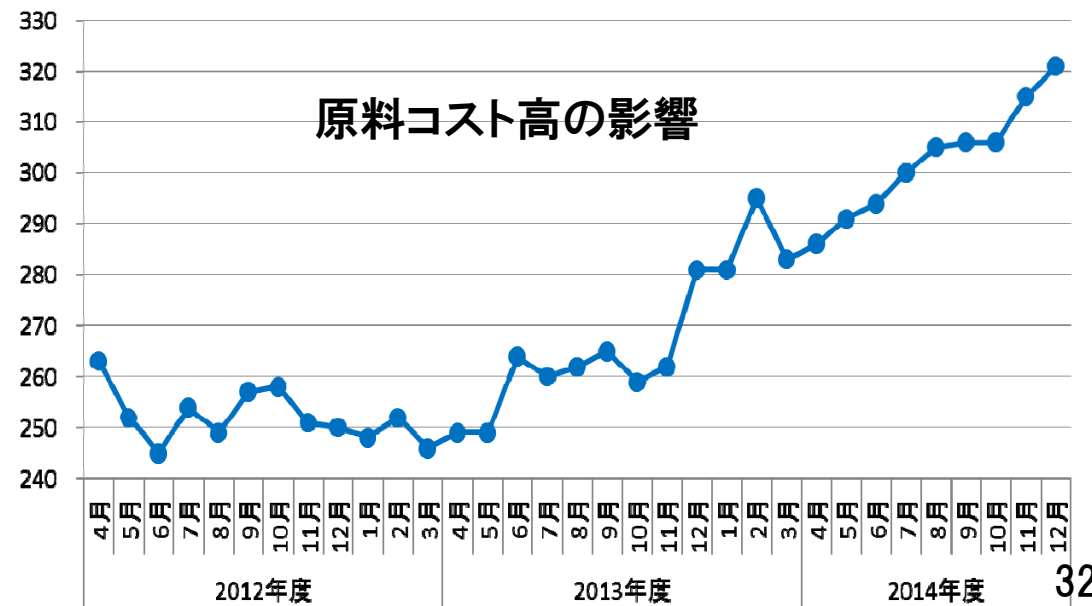


<営業利益(四半期別)>

(単位:億円)



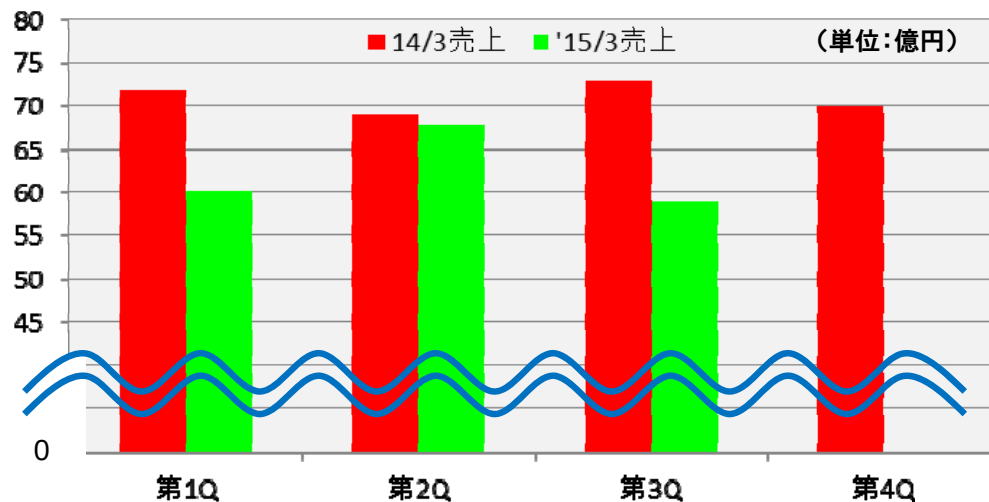
<冷凍すりみ輸入価格推移 (財務省貿易統計より算出)>



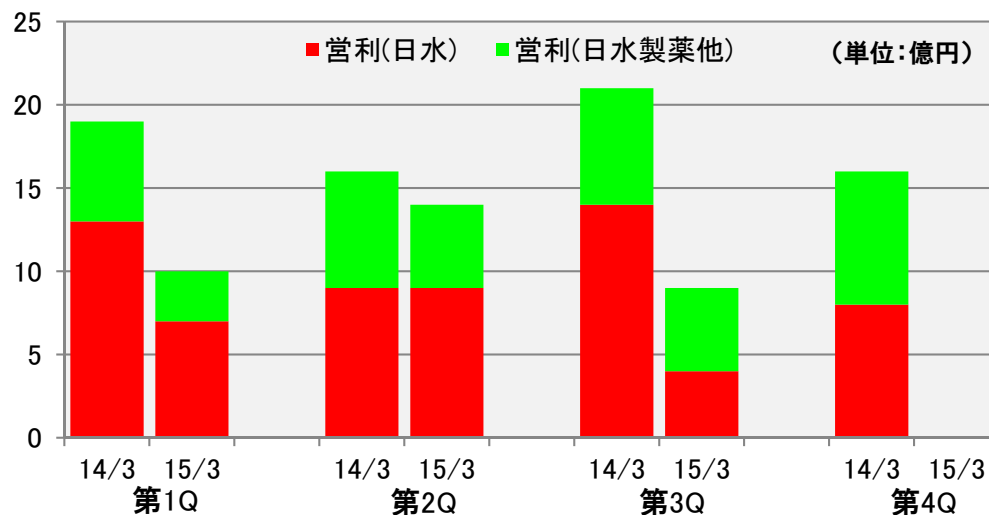
◆2年に1度の薬価改定および後発品使用促進策の強化等の影響により、減収・減益

(単位: 億円)	2015年3月期 第3四半期	2014年3月期 第3四半期	対前年同期比 増減額/率	2015年3月期 見通し(年間)	年間見通しに 対する進捗率
売上高	187	215	▲ 28 87.0%	262	71.6%
営業利益	36	58	▲ 22 62.4%	43	84.9%

売上高



営業利益



【第3四半期総括】

- ・医薬原料
2年に一度の薬価改定、および政府主導による後発品使用促進策の強化等の影響により、売上数量と粗利が大幅に縮小
- ・機能性食品
通販事業拡大を目指して広告宣伝費を投入するも、販売数量が伸び悩む
- ・(グループ)
臨床診断薬、医薬品での販売低迷



<薬価改定の影響>

2年に1度の薬価基準改定に伴い、医薬品原料販売単価を引き下げ

2015年3月期 第3四半期決算への影響⇒粗利減少額 対前年同期比 ▲約5億円

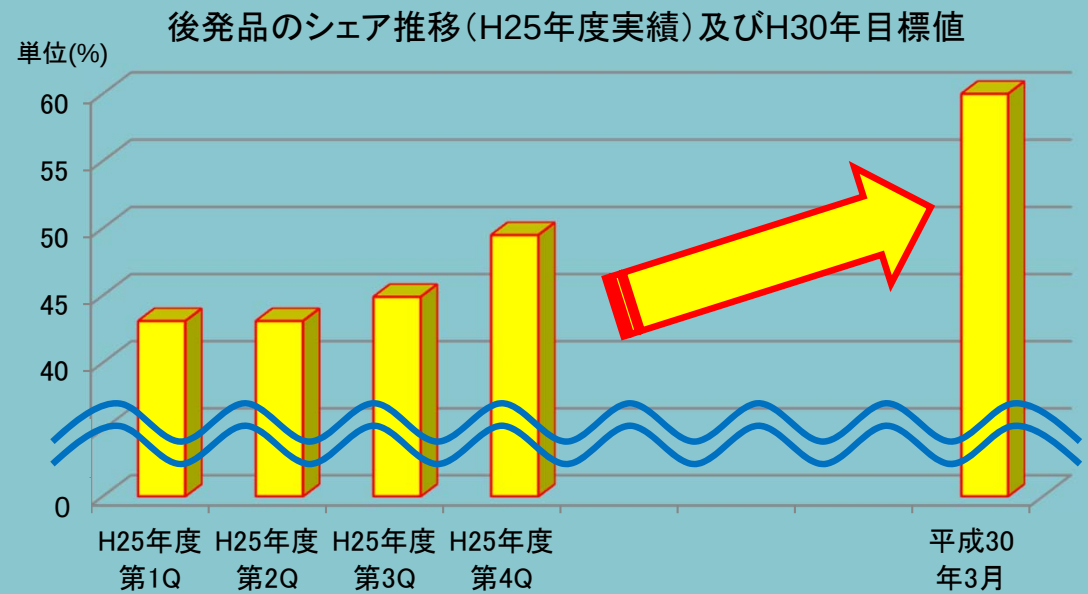
<後発品使用促進策の強化等の影響>

後発品使用促進策の強化等を背景に、
先発品の販売が苦戦

2015年3月期 第3四半期決算への影響
⇒粗利減少額 対前年同期比 ▲約8億円



過去の薬価改定では薬価引下げによる減少額を販売拡大でカバーしてきたが、今回は後発品が大きく拡大し、販売数量減少



出典: 日本ジェネリック製薬協会数値を加工して作成

<機能性食品>

・通販事業拡大を狙った広告宣伝費の投入するも、販売数量が伸び悩む ▲約3億円

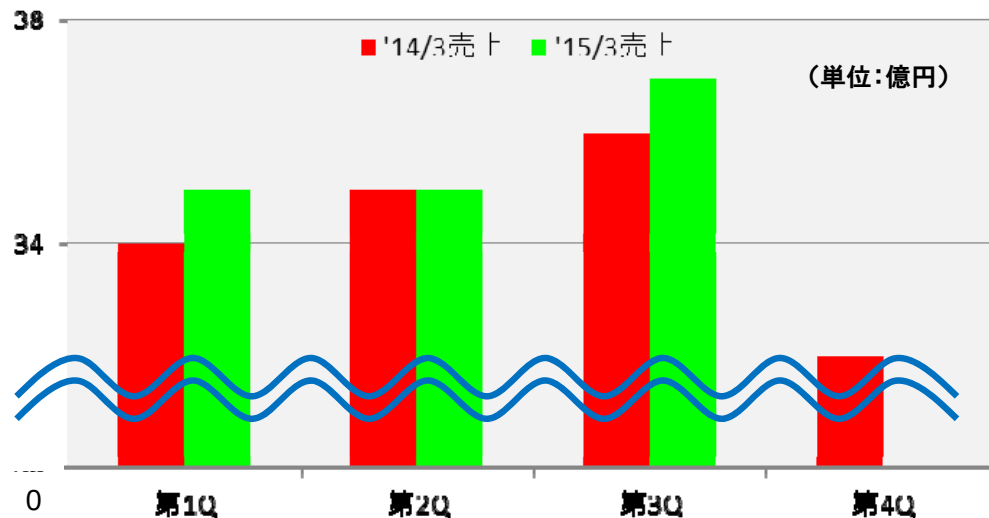
◆前年同期比で増収・増益

(単位:億円)	2015年3月期 第3四半期	2014年3月期 第3四半期	対前年同期比 増減額/率		2015年3月期 見通し(年間)	年間見通しに 対する進捗率
売上高	108	106	2	102.4%	144	75.6%
営業利益	13	13	0	104.1%	17	82.0%

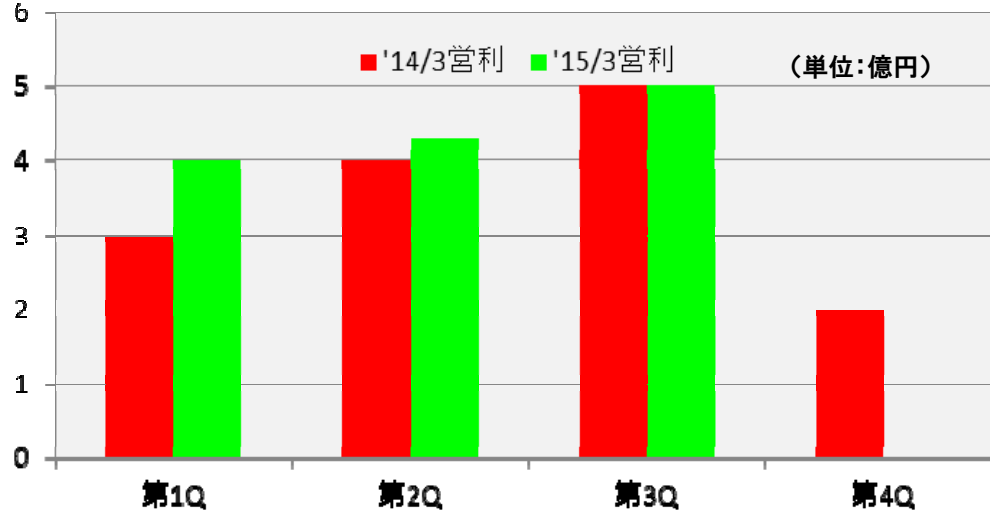
【第3四半期総括】

- ・電力料や運送費のコストが増加するも、保管料収入増加等により収支安定

売上高



営業利益



連結損益計算書(前年同期比)

(単位:億円)

	2015年3月期 第3四半期実績	売上高比 (%)	2014年3月期 第3四半期実績	売上高比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	4,721		4,486		234	5.2
売上総利益	1,014	21.5	944	21.0	70	7.4
販売費・一般管理費	843		827		16	
営業利益	170	3.6	116	2.6	53	45.9
営業外収益	64		31		33	
営業外費用	27		35		▲8	
経常利益	207	4.4	112	2.5	95	84.5
特別利益	4		20		▲16	
特別損失	25		21		3	
税金等調整前四半期純利益	186	4.0	111	2.5	74	67.2
法人税等	43		39		4	
法人税等調整額	26		4		21	
少数株主損益調整前四半期純利益	116		66		49	
少数株主利益	10		8		2	
四半期純利益	105	2.2	58	1.3	47	80.4

主な増減要因

【営業外収益・費用】

有価証券売却益 約12億円増加
持分法による
投資利益 約29億円増加 等

主な内訳

【特別利益・損失】

2015年3月期(当期)

- 関係会社株式売却損 約11億円
- 急激な環境変化による養殖
まぐろの斃死による損失
約8億円

2014年3月期(前期)

- 固定資産売却益 約14億円
- 減損損失戻入益 約3億円
- 関係会社株式売却損 約7億円
- 関係会社出資金売却損
約7億円

連結貸借対照表(前期末比)



(単位:億円)

主な増減要因					
資産	+383	流動資産	+416	現金及び預金	+35
				受取手形及び売掛金	+170
				商品及び製品	+52
				仕掛品	+27
				その他	+111
		固定資産	▲32	有形固定資産	+23
無形固定資産	▲17				
投資その他の資産	▲39				
負債	+215	流動負債	+245	支払手形及び買掛金	+46
				短期借入金	+146
				その他	+19
		固定負債	▲29	長期借入金	▲31
				退職給付に係る負債	▲4
		純資産	+168	利益剰余金	+105
				その他有価証券評価差額金	+25
				為替換算調整勘定	+22
				少数株主持分	+7

流動資産 2,513 (+416)	流動負債 2,207 (+245)
	固定負債 1,486 (▲29)
固定資産 2,186 (▲32)	純資産 1,005 (+168)
総資産 4,700 (+383)	うち自己資本 823 (+160) 自己資本比率 17.5%

自己資本比率 '14/3 15.4% → '14/12 17.5%

()内の数字は前期末比増減

連結キャッシュ・フロー計算書(前年同期比)



(単位:億円)

	2015年3月期 第3四半期	2014年3月期 第3四半期	増減	内訳	2015年3月期 第3四半期	2014年3月期 第3四半期	増減
営業活動によるCF	52	42	9	税金等調整前四半期純利益	186	111	74
				減価償却費	114	120	▲6
				貸倒引当金の増減額	3	▲22	25
				持分法による投資損益	▲21	7	▲29
				災害損失	8	—	8
				減損損失戻入益	—	▲3	3
				関係会社株式売却損	11	7	4
				関係会社出資金売却損	—	7	▲7
				運転資本の増減額	▲163	▲117	▲46
				法人税等の支払額	▲49	▲47	▲2
				その他	▲32	▲20	▲12
投資活動によるCF	▲121	▲124	3	有形固定資産の取得による支出	▲111	▲95	▲16
				有形固定資産の売却による収入	4	33	▲28
				投資有価証券の取得による支出	▲105	▲48	▲57
				投資有価証券の売却による収入	96	23	73
				投資有価証券の償還による収入	30	—	30
				短期貸付金の増減額	▲25	▲38	12
財務活動によるCF	89	111	▲22	短期借入金の純増減額	134	247	▲112
				長期借入れによる収入	90	86	3
				長期借入金の返済による支出	▲127	▲214	87
現金等の期末残高	161	218	▲57				

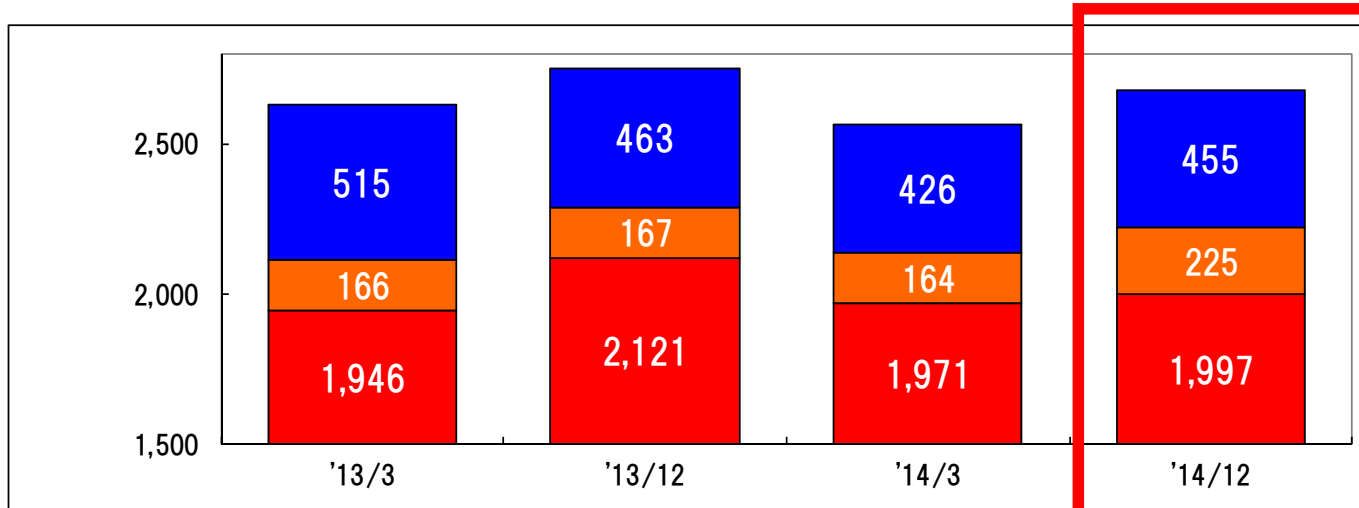
※営業活動によるCFの「その他」には賞与引当金の減少額等が含まれる。

連結借入金・純金利負担



(単位: 億円)

- 海外関係会社
- 国内関係会社
- ニッスイ個別



前期末
比増減

+28

+60

+25

借入金合計	2,626	2,751	2,561	2,677	+115
短期借入金	1,307	1,494	1,278	1,425	+146
長期借入金	1,319	1,256	1,282	1,251	▲31
短期借入金平均利率	0.9%	0.7%	0.7%	0.6%	▲0.1%
長期借入金平均利率	1.4%	1.4%	1.4%	1.4%	▲0.0%
純金利負担	18.1	14.6	16.9	12.4	
対営業利益純金利負担率	31%	13%	12%	7%	
支払利息	37.6	25	32.7	22.2	
受取利息	9.3	3.6	4.7	2.7	
受取配当金	10.1	6.7	11.0	6.9	
為替レート(US\$1)	@86.58(12月末)	@97.75(9月末)	@105.39(12月末)	@109.45(9月末)	

※為替レート換算による
影響額

前期末比 +25億円
前年同期末比 +57億円

個別損益計算書(前年同期比)



(単位:億円)

	2015年3月期 第3四半期実績	売上高比 (%)	2014年3月期 第3四半期実績	売上高比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	2,715		2,577		137	5.4
売上総利益	514	19.0	511	19.8	3	0.7
販売費・一般管理費	481		481		▲0	
営業利益	33	1.2	29	1.2	3	13.3
営業外収益	34		26		7	
営業外費用	22		25		▲2	
経常利益	45	1.7	31	1.2	13	44.0
特別利益	0		15		▲15	
特別損失	3		11		▲8	
税引前当期純利益	42	1.6	35	1.4	7	20.2
法人税等	3		1		1	
法人税等調整額	10		4		6	
当期純利益	28	1.1	29	1.1	▲0	▲2.3

主な増減要因

【販売費・一般管理費】

販売費増加 約9億円
管理費減少 約10億円
(退職給付費用減少)

【営業外収益・費用】

受取配当金増加 約4億円
支払利息減少 約1億円等

主な内訳

【特別利益・損失】

2015年3月期(当期)
- 関係会社株式評価損 約2億円

2014年3月期(前期)

- 固定資産売却益 約13億円
- 投資有価証券売却益 約2億円
- 関係会社出資金売却損 約5億円
- 関係会社債権放棄損 約3億円

第3四半期決算は概ね順調に推移しましたが、為替の影響や南米の鮭鱒養殖事業における在池魚の時価評価が確定しないこと、魚価の動向が不透明であることなどから、年間の見通しについては連結/個別とも変更しておりません。

連結

	2015年3月期 第3四半期実績 売上高比	2015年3月期 修正公表値 売上高比	進捗率
売上高	4,721	6,100	77.4%
営業利益	170 3.6%	175 2.9%	97.4%
経常利益	207 4.4%	200 3.3%	103.9%
当期純利益	105 2.2%	105 1.7%	100.5%

個別

	2015年3月期 第3四半期実績 売上高比	2015年3月期 年間公表値 売上高比	進捗率
売上高	2,715	3,280	82.8%
営業利益	33 1.2%	34 1.0%	99.4%
経常利益	45 1.7%	51 1.6%	89.0%
当期純利益	28 1.1%	37 1.1%	78.0%

主要在外会社の 為替換算レート	2015年3月期 第3四半期実績 (9月末レート)	2015年3月期 修正計画レート
米ドル	109.45円	108.00円
ユーロ	138.87円	138.87円
デンマーククローネ	18.66円	18.66円

海外は食品事業が堅調に推移するものの、国内では引き続きファイン事業の苦戦が予想され、全体として第4四半期は低調に推移する見込み。



＜水産事業＞

- ・南米の鮭鱒養殖事業で在池魚評価益が下振れする想定に加え、漁撈事業では南だらの漁獲が低調に推移。
- ・北米のすけそうだら事業は10月に漁期(Bシーズン)が終了しており、今後は収支がマイナスとなる。
- ・国内では不需要期に入り、魚価の下落懸念と販売数量減が見込まれる。

＜食品事業＞

- ・北米の家庭用冷凍食品会社及び業務用冷凍食品会社は好調を維持。
- ・欧州についても堅調に推移。
- ・国内では、円安進行とすりみ価格高騰などによるコストアップ、値上げ効果は実質的に翌期となるため収支悪化の懸念。

＜ファイン事業＞

- ・後発品の影響による数量減と工場稼働の低下、機能性食品の販売伸び悩みによる苦戦もあり、苦しい収支が続く見込み。

見通しに関する注意事項



本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因の変化により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社

2015年2月5日

証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR室広報IR課

03-6206-7044

<http://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

